

科目名	キャリアサポート		
担当教員名	若山 皖一郎、橋本 ヒロ子、岡本 卓、森 美栄		
ナンバリング			
学 科	社会情報学部-現代社会コース		
学 年		ク ラ ス	
開 講 期		必修・選択の別	
授 業 形 態		単 位 数	0
資 格 関 係			

ねらい（ 科目の性格 科目の概要 学修目標 ）

大学時代は自分が社会とどのようなつながりを持つか、それを探る重要な時期である。社会と関わる力やイメージを、具体的に社会で活躍する人々の話を通して学んでいくこのキャリアサポート（社会人入門）では、社会人として様々な領域、立場で仕事や活動をする人々に登場してもらい、行き方や仕事とどのようにかかわり地域で、社会で、職場で活動している様子を語ってもらう。多様に活動する社会人たちの状況を知ることから、社会生活、キャリアについての自己イメージを高め、就職活動への積極的な取り組みにつなげると同時に、社会に進出する大学生としてのキャリアプランや職業イメージを高めることに役立てて欲しい。

内容

第1・2回

社会人として登壇する人々の具体的なプログラム紹介。同時に、話をより有効に聞くために、その辞典での自己分析や自分のキャリアプランを想定してみる。自分自身のウォーミングアップを行う。

第3回以降

様々な領域、立場で活動する社会人が登壇（下記例示。具体的なプログラムは第1回に紹介）。大学生時代、社会とのかかわり、職業や人との出会い、転職や結婚・子育てとの両立など、歩んできた行き方を語る。

- ・地域・国際ボランティアで活動する人
- ・情報に関して企業を起こした起業家
- ・ファミリー・フレンドリー企業で働く女性/仕事と家庭両立の制度利用
- ・SE職や販売・営業職として
- ・広告制作など企画部門に関わる
- ・企業管理職の立場から
- ・マスコミ関係者
- ・企業内の開発グループや事務職

第1回に行った自分のキャリアプランが社会人の話を聞いてどのように変化したかを捉える。

評価

出席状況（50点）、登壇者の話に基づく「気づきレポート」の提出（40点）、最後のレポート（10点）を総合して評価を行い、60点以上を合格とする。

教科書・推薦書（著者名・書名・出版社名）

授業時に紹介

科目名	現代文明とコミュニケーション		
担当教員名	川口 英俊、阿部 史、大友 由紀子		
ナンバリング			
学 科	社会情報学部-現代社会コース		
学 年	1	ク ラ ス	
開 講 期	後期	必修・選択の別	必修*
授 業 形 態		単 位 数	2
資 格 関 係	現代社会コース		

ねらい(科目の性格 科目の概要 学修目標)

この科目は、現代社会コースの基礎的科目の一つとして位置づけられる。1年前期の新入生セミナーで調査・研究の基礎的スキルを身につけた上で、この授業では、歴史、政治、社会、法律、経済など、現代社会に関する基礎的知識を学ぶ。スキルと知識の双方を学ぶことによって、2年次以降の授業を通じて現代社会の理解を深める準備を整えることを目的とする。

内容

授業第1回で、本講義の目的と方法を説明した後、担当教員(各自4回の授業を担当)がそれぞれの専門分野での基礎的知識を、参考文献、新聞、ビデオなどを使いながら、わかりやすく説明する。現代社会におけるコミュニケーションの発展、役割、問題点についても、同時に検証する。現在の出来事を現在の視点で見るだけでなく、その歴史的、社会的、制度的背景を理解して、考えながら見つめる姿勢を学んでほしい。

評価

各教員の授業での出席(40%)、試験またはレポート(60%)で評価し、それを総合して成績を出す。

教科書・推薦書(著者名・書名・出版社名)

授業中に指定又はプリントなどを配布する。

科目名	NGO・NPOとコミュニケーション		
担当教員名	田総 恵子		
ナンバリング			
学 科	社会情報学部-現代社会コース		
学 年	2,3,4	ク ラ ス	
開 講 期	前期	必修・選択の別	選必, 選択
授 業 形 態		単 位 数	2
資 格 関 係	現代社会コース		

ねらい(科目の性格 科目の概要 学修目標)

私たちは、社会の中で色々な活動をする。学生として勉強する。生活者として働く。選挙の時には、有権者として投票する。特定の団体のメンバーとして、他のメンバーと共通の目的のために活動することもある。そんな様々な活動の中で、最近、社会の一員(市民)としての行動に関心が集まっている。そのように、人々が組織を作って社会のために活動する団体が、非政府団体(NGO)や非営利団体(NPO)と呼ばれるものだ。この授業では、人々が市民として新たに行動を起こす理由や目的、結成した団体の特徴、社会での活動の意義、政府や他の社会組織との関係、さらには、国際社会での協力関係や役割など、NGO やNPO の活動について、多角的に検証する。

内容

講義のテーマは以下の通り。1~2 回の授業を使って論じていく。

1. 市民社会における社会運動
2. 活動の動機：どうして活動を始めるのか
3. 活動の種類・目的：何をを目指すのか
4. 活動内容：何をするのか
5. 活動の拡大：誰と協力したのか
6. 活動の成果：何を達成したのか
7. 活動の影響：社会は変わったか
8. 市民社会の発展

評価

出席(15%)、レポート(40%)、試験(45%)で総合評価。

教科書・推薦書(著者名・書名・出版社名)

【教科書】大畑裕嗣 他 『社会運動の社会学』 有斐閣選書、2004 年

【推薦書】賀来健輔・丸山仁 編著 『ニュー・ポリティクスの政治学』 ミネルヴァ書房、2000 年 311/N

【参考図書】長谷川公一 編 『講座環境社会学・環境運動と政策のダイナミズム』 有斐閣、2001 年

科目名	異文化コミュニケーション		
担当教員名	田総 恵子		
ナンバリング			
学 科	社会情報学部-現代社会コース		
学 年	1,2	ク ラ ス	
開 講 期	前期	必修・選択の別	選択, 選必
授 業 形 態		単 位 数	2
資 格 関 係	現代社会コース		

ねらい(科目の性格 科目の概要 学修目標)

異なる文化的背景を持つ人と出会ったとき、私たちはうまくコミュニケーションができないと覚えることがある。それは、手段(言語、非言語)が充分でないからなのか、それとも、考え方(文化)が違ふからなのだろうか。授業では、コミュニケーションの方法と文化のつながりについて考え、異文化間のコミュニケーションの特徴を探る。さらに、「ネット社会」の急速な発展など最近の社会の変化が、異文化コミュニケーションのあり方の及ぼしている影響についても考えてみたい。

内容

講義では、下記のトピックについて1~2 回の授業を使って論じていく。

1. 異文化コミュニケーション研究の歴史
2. コミュニケーション：何を伝達するのか
3. 言語以外によるコミュニケーション
4. 言語によるコミュニケーション
5. コミュニケーション・スタイル
6. 異文化：文化とは何か
7. 異文化理解
8. メディアと異文化
9. 国際社会における異文化コミュニケーション
10. 多文化世界：異文化の融合と共生

評価

出席(15%)、レポート(35%)、試験(50%)で総合評価。

教科書・推薦書(著者名・書名・出版社名)

【教科書】鍋倉健悦 『異文化コミュニケーション入門』丸善ライブラリー 1997 年

【推薦書】石井敏 他 『異文化コミュニケーション・ハンドブック』有斐閣選書 1997 年 361.54/1

【参考図書】古田暁 他 『異文化コミュニケーション・キーワード 新版』有斐閣双書 2001 年

科目名	国際政治論		
担当教員名	田総 恵子		
ナンバリング			
学 科	社会情報学部-現代社会コース		
学 年	2,3,4	ク ラ ス	
開 講 期	後期	必修・選択の別	選択, 必修*, 選必
授 業 形 態		単 位 数	2
資 格 関 係	中学校教諭一種免許状(社会) / 高等学校教諭一種免許状(公民) / 現代社会コース		

ねらい(科目の性格 科目の概要 学修目標)

21 世紀に入った国際社会はどのような問題に直面しているのだろうか。これまでの国際問題とは違う、新たな問題が発生しているのだろうか。この講義では、20 世紀後半の国際関係の流れを再考し、その上で、現在の国際社会の問題の特徴を探る。国際問題を、国際社会という舞台に現れる登場人物(主体)、話し合われる事柄、その背景の理解を通じて、多角的に捉えていく。国際政治とは、自分から遠いところで、自分に関係なく動いているものではないことを学んでほしい。

* 同時に「北アメリカとヨーロッパ地域研究概論」を履修すれば参考になるが、この講義のみの履修も可能。

内容

講義で取り上げる代表的なトピックは以下の通り。

1. 国際政治を見る眼
2. 21 世紀の国際政治の諸問題
 - 地域紛争
 - テロリズム
 - 南北問題
 - 環境問題
 - 人権問題
3. 歴史的流れ
 - グローバリゼーション
 - リージョナリゼーション(地域化)
 - マイクロ・ナショナリズム

評価

出席(15%)、レポート(35%)、試験(50%)で総合評価。

教科書・推薦書(著者名・書名・出版社名)

【教科書】羽場久美子・増田正人 編『21 世紀国際社会への招待』有斐閣ブックス、2003 年

【推薦書】小林誠 他『グローバル・ポリティクス - 世界の再構造化と新しい政治学』有信堂、2003 年

319.04/G

【参考図書】猪口孝 編『国際関係リーディングズ』東洋書林、2004 年

科目名	国際協力論		
担当教員名	橋本 ヒロ子		
ナンバリング			
学 科	社会情報学部-現代社会コース		
学 年	2,3,4	ク ラ ス	
開 講 期	前期	必修・選択の別	選必, 選択
授 業 形 態		単 位 数	2
資 格 関 係	現代社会コース		

ねらい(科目の性格 科目の概要 学修目標)

グローバル化の進展に伴い、国連など国際機関の活動が重要視されるようになった。世界銀行からの借款により東海道新幹線の建設をした日本も、急激な経済発展をして先進国の仲間入りをし、ODA の額では世界有数の国として成長した。

本科目では、国連、ユニセフ、ユネスコ、ILO など国際機関の成立の由来、活動の特徴や概要、並びに日本など先進国が開発途上国に対して行う国際協力の現状と課題について、インターネット、新聞記事、ビデオなどを通して、現状と課題を把握することを目的とする。年々重要性を増している国際的なNGOの活動の現状と課題も検討する。さらに、就職試験の常識問題として出題される国際問題の演習も行う。

内容

1. 国際協力とは何か(2国間、多国間)、低開発国/開発途上国/先進国の基準とは何か、人間開発指数
2. 国連の仕組み、国連の活動について資料の配布と説明
3. 国連関係機関・専門機関における活動:(ビデオ:人権宣言のできるまで)
4. 国連の活動:DAW、ESCAP、UNIFEM、UNICEF、UNESCO、ILO、UNFPA、WB、A D B等国際機関における取り組み
5. ミレニアム開発目標
6. 専門機関における活動 ILO (ビデオ:児童労働)
7. 国連関係機関における活動 IOM (ビデオ:人身売買)
8. 各国政府の国際協力活動 CIDA、ODA、USAIDなど、ジェンダーと開発
9. ODAのあり方、持続的な開発「巨大ダムは終わり」(ビデオ)
10. JICA(国際協力事業団)の活動およびジェンダーと開発プロジェクト(JICA派遣ゲスト講師)
11. 国連以外の国際機関、ASEAN、APEC、OECD、それ以外の社会『世界社会フォーラム2005』
12. NGOの活動 JOICEF(ビデオ)
13. 国連の男女平等のための活動:女性差別撤廃条約、選択議定書、女性に対する暴力撤廃宣言、世界人権会議関連:女性の権利は人権である
14. 国際人口開発会議関連:リプロダクティブ・ヘルス、ライツ、北京行動綱領、21世紀に向けての合意事項
15. 試験

評価

試験(50%)、課題(25%)、出席(15%)、ワークシートの内容(10%)

教科書・推薦書(著者名・書名・出版社名)

- 『国際協力ガイド 2006』国際開発ジャーナル社 2006
- 『政府開発援助(ODA)白書 2008』外務省 2008
- 『人間開発報告書 2003 - ミレニアム開発目標(MDGs)達成に向けて -』国連開発計画 国際協力出版会 2003
- 『人間開発報告書 2005 岐路に立つ国際協力』国連開発計画2005

科目名	現代社会生活動向分析（時事解説）		
担当教員名	岡本 卓、佐藤 公正、鈴木 弘貴、込江 雅彦 他		
ナンバリング			
学 科	社会情報学部-現代社会コース		
学 年	2	ク ラ ス	
開 講 期	前期	必修・選択の別	選択, 選必
授 業 形 態		単 位 数	2
資 格 関 係	現代社会コース		

ねらい（ 科目の性格 科目の概要 学修目標 ）

9・11同時多発テロで幕が開いた混迷の21世紀は、各地での武力紛争を抱えたまま早くも十分の一が過ぎようとしている。

2008年後半に入ってアメリカ発の金融不安がアメリカの繁栄を支えてきたビッグ3＝自動車産業を直撃。“アメリカ失墜”の衝撃はアメリカ国内に留まらず、全世界の経済、産業に深刻な影響を及ぼし、未曾有の事態を招来した。日本も例外ではなく、日々の生活を支える雇用もこれまで経験したことの無い深刻な事態に見舞われている。一方、地球温暖化問題は待たなしの取り組みが求められているにもかかわらず、先進国側と新興国側との溝が埋められず、効果的な対策作りは遅々として進まない。

内外のメディアは、こうした複雑で難解な諸問題についてさまざまな情報を発信し続け、我々は情報の洪水の中から、真に必要なものを的確に選び出さなければならない。そのためにも我々は、いわゆるメディアリテラシーを身につけることを求められているのである。

この授業では、政治や経済、社会問題、国際関係など、それぞれのテーマを専門とする教員が、その時々タイムリーな出来事（ニュース）を取り上げて、その意味するところや問題点、歴史的な背景、今後の展望などについて解説する。これによって、日々のニュースについてその歴史的、国際的な視点に立った多角的な分析を可能にし、現代を生きる我々に不可欠な「複眼」思考を養うものとする。

内容

時事的なテーマを決めて毎回、完結した授業を行う。

08年度の例では、「“ギョーザ事件”と食の安全」「サブプライムローン問題と世界経済」「裁判員制度」「米大統領選挙」「論議を呼ぶ死刑制度」「18歳成人問題」「福田内閣と政局」「後期高齢者医療制度と老人保健制度」「環境問題」「洞爺湖サミット」「自殺社会」「靖国問題」「北朝鮮問題」「リ・マンショック」「日本の安全保障」などを取り上げた。

授業の進め方

毎回の授業で、翌週のテーマと担当教員を予告する（第1回は授業のガイダンスを兼ねて行うので、あらかじめテーマを示すことはない）

受講生は、そのテーマについて参考図書や新聞記事、インターネットの情報検索などで調べ、その結果を「予習レポート」としてまとめ、授業開始直前に教室で提出する（用紙はA4版、前の週に配布する）

授業終了のおよそ10分前に、その日の授業内容の理解度をみるための「ミニテスト」を行う。「ミニテスト」用紙は授業前に各受講生に配布する。

評価

毎回提出する「予習レポート」＝40点、ミニテスト＝30点、出席＝30点 計100点、60点以上が合格

教科書・推薦書（著者名・書名・出版社名）

テーマに即した資料を配布するほか、必要に応じて参考図書などを紹介する。

科目名	現代社会生活動向分析（時事解説）		
担当教員名	岡本 卓、佐藤 公正、鈴木 弘貴、込江 雅彦 他		
ナンバリング			
学 科	社会情報学部-現代社会コース		
学 年	2	ク ラ ス	
開 講 期	後期	必修・選択の別	選必, 選択
授 業 形 態		単 位 数	2
資 格 関 係	現代社会コース		

ねらい（ 科目の性格 科目の概要 学修目標 ）

9・11同時多発テロで幕が開いた混迷の21世紀は、各地での武力紛争を抱えたまま早くも十分の一が過ぎようとしている。

2008年後半に入ってアメリカ発の金融不安がアメリカの繁栄を支えてきたビッグ3＝自動車産業を直撃。“アメリカ失墜”の衝撃はアメリカ国内に留まらず、全世界の経済、産業に深刻な影響を及ぼし、未曾有の事態を招来した。日本も例外ではなく、日々の生活を支える雇用もこれまで経験したことの無い深刻な事態に見舞われている。一方、地球温暖化問題は待たなしの取り組みが求められているにもかかわらず、先進国側と新興国側との溝が埋められず、効果的な対策作りは遅々として進まない。

内外のメディアは、こうした複雑で難解な諸問題についてさまざまな情報を発信し続け、我々は情報の洪水の中から、真に必要なものを的確に選び出さなければならない。そのためにも我々は、いわゆるメディアリテラシーを身につけることを求められているのである。

この授業では、政治や経済、社会問題、国際関係など、それぞれのテーマを専門とする教員が、その時々タイムリーな出来事（ニュース）を取り上げて、その意味するところや問題点、歴史的な背景、今後の展望などについて解説する。これによって、日々のニュースについてその歴史的、国際的な視点に立った多角的な分析を可能にし、現代を生きる我々に不可欠な「複眼」思考を養うものとする。

内容

時事的なテーマを決めて毎回、完結した授業を行う。

08年度の例では、「“ギョーザ事件”と食の安全」「サブプライムローン問題と世界経済」「裁判員制度」「米大統領選挙」「論議を呼ぶ死刑制度」「18歳成人問題」「福田内閣と政局」「後期高齢者医療制度と老人保健制度」「環境問題」「洞爺湖サミット」「自殺社会」「靖国問題」「北朝鮮問題」「リ・マンショック」「日本の安全保障」などを取り上げた。

授業の進め方

毎回の授業で、翌週のテーマと担当教員を予告する（第1回は授業のガイダンスを兼ねて行うので、あらかじめテーマを示すことはない）

受講生は、そのテーマについて参考図書や新聞記事、インターネットの情報検索などで調べ、その結果を「予習レポート」としてまとめ、授業開始直前に教室で提出する（用紙はA4版、前の週に配布する）

授業終了のおよそ10分前に、その日の授業内容の理解度をみるための「ミニテスト」を行う。「ミニテスト」用紙は授業前に各受講生に配布する。

評価

毎回提出する「予習レポート」＝40点、ミニテスト＝30点、出席＝30点 計100点、60点以上が合格

教科書・推薦書（著者名・書名・出版社名）

テーマに即した資料を配布するほか、必要に応じて参考図書などを紹介する。

科目名	オーラルコミュニケーション		
担当教員名	ニコラス ルーツ		
ナンバリング			
学 科	社会情報学部-現代社会コース		
学 年	2	ク ラ ス	1Aクラス
開 講 期	前期	必修・選択の別	必修*
授 業 形 態		単 位 数	2
資 格 関 係	現代社会コース		

ねらい(科目の性格 科目の概要 学修目標)

To develop speaking skills, students need to be exposed to English and use English as much as possible. The overall objective of this course is to provide students with plenty of opportunities to listen to English and to speak in English. Students' development of listening and speaking skills will be guided and lead by interesting and relevant topics.

内容

In order to maximize their learning opportunities, active participation is essential. Students will participate in pair work and group work discussion, roleplays, and whole class activities. Students will be introduced to key language through enjoyable cartoons and will be guided through pronunciation, speaking, listening, reading, and writing exercises.

1	Favourite Names: Names and greetings
2	A Barbecue with Friends: Food and Occupations
3	Family Photos: Family and interests
4	That's My Lucky Number: Phone numbers, addresses, and numbers
5	It's a Small World: Countries and Colors
6	Do You Like This Shirt: Clothing and prices
7	Review
8	We're Late: Time and days of the week
9	Happy Birthday: Age and birthday parties
10	Let's Do Something This Weekend: Weekend activities, seasons, and weather
11	Come on! Hurry Up: Basic commands and locations in a city
12	Let's Order a Pizza: Food, drinks, and menus
13	Welcome to San Francisco: Cities around the world, points of interest, and invitations
14	Review
15	Final Exam

評価

Attendance (15%): Anyone missing more than 4 classes will be given an F grade.

Effort and Participation (25%):

Skits and roleplays (30%):

Homework (15%):

Quizzes and Final Test (15%):

教科書・推薦書（著者名・書名・出版社名）

Fuller and Kiggell, Advantage Get Ready, Macmillan Languagehouse 2004, ISBN: 4-89585-521-X

科目名	オーラルコミュニケーション		
担当教員名	ジェームズ クレイグ		
ナンバリング			
学 科	社会情報学部-現代社会コース		
学 年	2	ク ラ ス	1Bクラス
開 講 期	前期	必修・選択の別	必修*
授 業 形 態		単 位 数	2
資 格 関 係	現代社会コース		

ねらい(科目の性格 科目の概要 学修目標)

The goal of this class is to improve the student's oral communication ability. This involves learning a set of tactics that will help the student become a more successful, and satisfied, speaker of English. Hopefully, as the the student progresses, an increase in ability will lead to a greater sense of accomplishment and a higher level of confidence.

内容

In this class, students will concentrate on a variety of speaking activities. These will involve pair work, group work, various role play activities, speeches, and plays.

評価

The grade for the class will be based on the following:
 Daily participation (classwork, homework, attitude): 60%
 Test/Quizzes: 30%
 Attendance: 10%

教科書・推薦書(著者名・書名・出版社名)

Class handouts will be utilized.

科目名	時事英語		
担当教員名	島村 豊博、森 美栄		
ナンバリング			
学 科	社会情報学部-現代社会コース		
学 年	2	ク ラ ス	
開 講 期	後期	必修・選択の別	必修*
授 業 形 態		単 位 数	2
資 格 関 係	現代社会コース		

ねらい(科目の性格 科目の概要 学修目標)

現代社会を知る上で、今世界で起きている事柄を知る必要があります。授業では、英字新聞を読み、社会的事件を考察したいと思います。時事英語には放送英語と新聞英語がありますが、新聞英語のみを扱い、新聞英語独特の表現や語法を学んだ上で、英字新聞記事を読みます。新聞英語は、語彙は豊富であるとはいえ構文は簡単なものが大半です。しかし、一文が長いために、構文をしっかり把握していなければ意味を捉えることができません。そのためには、英語の語順に従って、前から読む必要があります。この授業では、この点の訓練を徹底して行います。さらに、ニュースの聞き取りも行います。

当然のことながら、予習をして授業に臨んでください。毎回単語テストを含む小テストを実施しますので、復習が必要になります。

内容

新聞英語は難しいと考えられていますが、構文自体はやさしいものが多いといえます。しかし、新聞独特の表現や、慣用語も多く多用されることがあります。したがって、懇切丁寧に構文理解に努めるよう心がけたいと思います。

ただ漫然と訳すことのないように、前後関係から読み取るよう心がけてください。英作問題が含まれていますので、英語による表現を鍛えることもできます。さらに、皆さんが不得意な文法事項の解説もします。

評価

出席率及び平常点(15%)、小テスト(20%)、定期試験(65%)。

教科書・推薦書(著者名・書名・出版社名)

Haruo Kizuka, News around the World, ほんのしろ開文社出版, ¥1,890

科目名	生活と統計		
担当教員名			
ナンバリング			
学 科	社会情報学部-現代社会コース		
学 年		ク ラ ス	2Aクラス
開 講 期		必修・選択の別	
授 業 形 態		単 位 数	
資 格 関 係	現代社会コース		

ねらい（ 科目の性格 科目の概要 学修目標 ）

Excelの表計算ツールを使って統計の基礎知識を習得します。「統計」と聞くと難しそうな感じがしますが、扱うデータは人口、結婚、家族、家計、地域、生活時間など、私たちの暮らしについての身近なデータです。どのような性質のデータには、どのような集計方法がふさわしいのか、生活の中で役立つ統計データを効率よく電算処理できるよう、知識と技術を習得します。

内容

1．Excelの基本操作

文字や数字の入力

表の作成と装飾

グラフの作成と装飾

2．Excelによるデータの集計と分析

質的データと量的データ

単純集計（度数分布、ヒストグラム、相対度数分布、累積度数分布、代表値、対称分布・非対称分布）

クロス集計（相関関係、相関係数、カイ2乗検定）

比較分析（構成割合、単位あたりの率と指数）

時系列の分析（指数、対前年比、寄与率、移動平均）

3．Excelによるグラフの作成

グラフの意義

グラフ作成上の注意

グラフの種類（棒グラフ、折線グラフ、ヒストグラム、パイグラフ、帯グラフ、面グラフ、立体グラフ）

評価

授業時の課題提出（40%）と単元毎の課題提出（60%）によって評価します。

教科書・推薦書（著者名・書名・出版社名）

【参考図書】

『日本の統計2009』総務省統計局、2009年。

『世界の統計2009』総務省統計局、2009年。

ボーンシュテット&ノーキ著、海野道郎&中村 隆監訳『社会統計学』、ハーベスト社、1990年。

科目名	情報倫理		
担当教員名			
ナンバリング			
学 科	社会情報学部-現代社会コース		
学 年		ク ラ ス	1Bクラス
開 講 期		必修・選択の別	
授 業 形 態		単 位 数	
資 格 関 係	高等学校教諭一種免許状（情報） / 現代社会コース		

ねらい（ 科目の性格 科目の概要 学修目標）

シティー（都市）に生活する人はシティズン（市民）ですが、情報ネットワークに依存して生活する人びとは「ネティズン」という新しい呼び名を与えられています。私たちはもうその一員に組み込まれています。モノに代わって情報の価値の生産と利用を軸に発展していく情報社会は、情報通信技術（ICT）の革新とともに未知の世界を作り出しています。そこには、便利さと背中合わせに大きな危険もひそんでいます。この新しいけれども未熟な社会にふさわしい新しいルールやマナーが必要不可欠です。

しかし、現実にはネットワーク上での誹謗中傷、プライバシーの侵害や有害情報の氾濫、経済犯罪、詐欺、著作権侵害などの事件が増える一方です。あなた自身、そうした被害者にも加害者にもなってしまうネティズンのひとりなのです。表現の自由と人権侵害、情報弱者と強者の格差問題もあります。情報ネット社会が日常生活にもたらす「光と影」について具体的な事例をもとに検証し、情報社会を快適に生きる基本的な知識とルールを身につけます。

内容

- 1．インターネット社会の特質
- 2．個人情報の保護
- 3．情報セキュリティ
- 4．人権の侵害
- 5．有害情報と表現の自由
- 6．著作権の保護と侵害
- 7．うまい話の危険性と被害回復
- 8．電子メールのマナー
- 9．情報社会の未来

評価

原則として毎回、授業内容に関して「私の意見」と質問をリアクションペーパーの形で書き、提出してもらいます。その内容30点、期末のペーパーテスト70点とし、総計60点以上を合格とします。なお、原則として4回以上の欠席は履修放棄とみなします。

教科書・推薦書（著者名・書名・出版社名）

【教科書】

次の教科書を各自購入し、持参すること。

情報教育学研究会・情報倫理教育研究グループ『インターネット社会を生きるための情報倫理』（実教出版）。このほか、授業にあわせて毎回プリント資料を教材として配布します。

科目名	社会調査技法（量的調査）		
担当教員名			
ナンバリング			
学 科	社会情報学部-現代社会コース		
学 年		ク ラ ス	1Cクラス
開 講 期		必修・選択の別	
授 業 形 態		単 位 数	
資 格 関 係	現代社会コース		

ねらい（ 科目の性格 科目の概要 学修目標）

社会調査には大きく言って、数量データを統計的手法によって分析する量的調査と、事例データを社会的文脈に即して分析する質的調査の2つのタイプがある。本科目では、特にそのうちの量的調査について、データの収集方法や分析方法を学習する。

内容

社会調査とは何か

1. 社会調査の基本的性質
2. 社会調査の系譜と歴史
3. 社会調査の諸方法

社会調査の手順と過程

1. 調査目的の検討
2. 調査方法の選択
3. 現地調査の実施

統計的方法の調査技術

1. サンプルングの理論と技術
2. 質問紙および調査票の作成技術
3. 測定尺度の設定

統計処理の手段

1. 統計表の作り方（エディティング、コーディング、タビュレーション）
2. 統計の分析（単純集計、クロス集計、比較分析、時系列の分析）

社会調査の今日の問題

1. 社会調査の比較やデータ蓄積の問題
2. 社会調査の倫理問題

評価

単元毎の小テスト(40%)と学期末のレポート(60%)で評価する。

教科書・推薦書（著者名・書名・出版社名）

【推薦書】大谷信介・木下栄二・後藤範章・小松 洋・永野 武 編著『社会調査へのアプローチ - 理論と方法 -』（第2版）、ミネルヴァ書房、2005年。361.9/S

【参考図書】

酒井 隆 著『アンケート調査と統計解析がわかる本』、日本能率協会、2003年。

科目名	社会調査技法（質的調査）		
担当教員名	亀田 温子		
ナンバリング			
学 科	社会情報学部-現代社会コース		
学 年	2	ク ラ ス	2Aクラス
開 講 期	後期	必修・選択の別	必修*
授 業 形 態		単 位 数	2
資 格 関 係	現代社会コース		

ねらい（ 科目の性格 科目の概要 学修目標）

社会調査には統計処理を前提としてデータを扱う量的調査と、事例データを社会的文脈に即して分析する質的調査の2つのタイプがある。この授業では、ヒアリング調査、参与観察法、ドキュメント分析、フィールドワーク、インタビュー、ライフヒストリー分析、会話分析、映像テキスト分析など、質的調査の技法を学習し、卒業研究において、質的データを収集し分析する技術を習得する。

内容

1	社会調査の目的
2	質的調査の概説
3	調査と理論
4	質的方法と量的方法
5	フィールドワーク
6	参与観察
7	インタビュー
8	ライフヒストリー
9	ドキュメント分析
10	内容分析
11	会話分析
12	構造分析
13	さまざまな質的方法
14	質的調査の実際
15	質的調査と調査倫理

評価

授業時の課題提出（40%）と学期末のレポート（60%）で評価する。

教科書・推薦書（著者名・書名・出版社名）

【参考図書】

桜井 厚『インタビューの社会学』せりか書房、2002年。361.16/S

W.I.トマス/F.ズナニエツキ『生活史の社会学』桜井 厚訳、御茶の水書房、1983年。

中野 卓『口述の生活史』御茶の水書房、1977年。916/N

W.F.ホワイト『ストリート・コーナー・ソサエティ』寺谷弘士訳、垣内出版、1979年。361.4/W

佐藤郁哉『フィールドワーク』新曜社、1992年。361.9/S

科目名	社会調査技法（質的調査）		
担当教員名	大友 由紀子		
ナンバリング			
学 科	社会情報学部-現代社会コース		
学 年	2	ク ラ ス	2Bクラス
開 講 期	後期	必修・選択の別	必修*
授 業 形 態		単 位 数	2
資 格 関 係	現代社会コース		

ねらい（ 科目の性格 科目の概要 学修目標）

社会調査には統計処理を前提としてデータを扱う量的調査と、事例データを社会的文脈に即して分析する質的調査の2つのタイプがある。この授業では、ヒアリング調査、参与観察法、ドキュメント分析、フィールドワーク、インタビュー、ライフヒストリー分析、会話分析、映像テキスト分析など、質的調査の技法を学習し、卒業研究において、質的データを収集し分析する技術を習得する。

内容

1	社会調査の目的
2	質的調査の概説
3	調査と理論
4	質的方法と量的方法
5	フィールドワーク
6	参与観察
7	インタビュー
8	ライフヒストリー
9	ドキュメント分析
10	内容分析
11	会話分析
12	構造分析
13	さまざまな質的方法
14	質的調査の実際
15	質的調査と調査倫理

評価

授業時の課題提出（40%）と学期末のレポート（60%）で評価する。

教科書・推薦書（著者名・書名・出版社名）

【参考図書】

桜井 厚『インタビューの社会学』せりか書房、2002年。361.16/S

W.I.トマス/F.ズナニエツキ『生活史の社会学』桜井 厚訳、御茶の水書房、1983年。

中野 卓『口述の生活史』御茶の水書房、1977年。916/N

W.F.ホワイト『ストリート・コーナー・ソサエティ』寺谷弘士訳、垣内出版、1979年。361.4/W

佐藤郁哉『フィールドワーク』新曜社、1992年。361.9/S

科目名	社会情報処理演習		
担当教員名	川口 英俊		
ナンバリング			
学 科	社会情報学部-現代社会コース		
学 年	2	ク ラ ス	
開 講 期	前期	必修・選択の別	必修*
授 業 形 態		単 位 数	2
資 格 関 係	現代社会コース		

ねらい(科目の性格 科目の概要 学修目標)

授業でのレポートなどの課題、3年次のゼミ等における発表、4年次の卒業研究に対応していくための基本的技術の習得を第一目標とするが、それだけにとどまらず与えられた情報をどう解釈し、どう加工していくか、どうまとめていくかといった応用問題に対応できる基礎を身につけることを目指したい。与えられたテーマを望まれているように加工する技術も必要だが、自分の問題意識に沿って必要な知識と技術を見つけ出し解決していく能力を身につけることを大目標としたい。

内容

以下の内容を基本とする。なるべくレポート作成や発表といった実践の中で学ぶことを目指す。

- ・基本的パソコン技術
- ・参考文献検索・収集技術
- ・レポートの書き方に関する基本的技術プラスアルファ
- ・レポートに取り込むための図表作成(エクセルによる)
- ・レジュメ作成 - 構成の作り方
- ・パワーポイントによる発表・プレゼンテーション技術

評価

出席点(30%)、課題(30%)、発表・平常点(40%)等を総合的に判断する。

教科書・推薦書(著者名・書名・出版社名)

【推薦書】

学習技術研究会「知へのステップ 改訂版」くろしお出版

藤沢晃治「わかりやすい表現の技術」

住中光夫「PowerPoint でマスターする勝ち抜く提案プレゼン実践の極意」アスキー

科目名	社会情報処理演習		
担当教員名	橋本 ヒロ子		
ナンバリング			
学 科	社会情報学部-現代社会コース		
学 年	2	ク ラ ス	
開 講 期	後期	必修・選択の別	必修*
授 業 形 態		単 位 数	2
資 格 関 係	現代社会コース		

ねらい(科目の性格 科目の概要 学修目標)

図書館の貸し出し管理、お店の売り上げ管理、顧客情報など、さまざまなデータがデータベースとして管理・活用されています。データや情報を効率的に管理し効果的に一瞬で検索するために、データベースは不可欠な存在になっています。本科目においては、アクセスというリレーショナルデータベースの基礎を学ぶとともに、販売管理などを題材としてデータの構造を考え、Access を用いたデータベースの作成・管理・活用方法を学びます。

内容

1. データベースとは
2. アクセスの基礎知識 アクセスの概要 アクセスを起動する。画面構成、アクセスの修了
3. データベースの設計と作成
 - データベースの設計
 - データベースの作成
4. 5. テーブルの作成
 - テーブルの概要
 - 商品マスターの作成
 - 得意先マスターの作成
 - 売り上げデータの作成
6. リレーションシップの作成
 - リレーションシップとは、リレーションシップの作成
7. 8. 簡単なクエリの作成
9. フォームの作成
 - 入力画面の作成
10. 複雑なクエリの作成
11. レポートの作成
- 12 14. 自分でデータベースを作成する
 - データベースの設計、どのようなテーブルをどのようなフィールドで作るか
15. 自分で作成したデータベースの発表

評価

作成したデータベースやクエリの内容(70)、ミニテストの成績(15)、受講態度・出席(15)

教科書・推薦書(著者名・書名・出版社名)

教科書: 『よくわかるAccess 2007』FOM出版

科目名	消費者と法		
担当教員名	阿部 史		
ナンバリング			
学 科	社会情報学部-現代社会コース		
学 年	1,2	ク ラ ス	
開 講 期	後期	必修・選択の別	選必, 選択
授 業 形 態		単 位 数	2
資 格 関 係	中学校教諭一種免許状(社会) / 現代社会コース		

ねらい(科目の性格 科目の概要 学修目標)

私たちは、通信販売で洋服を買う、映画を見る、旅行会社でツアーに申し込む、電車にのるといったあらゆる日常生活の場面で私たちは誰もが「消費者」として生活しています。つまり「事業者」から物やサービスを購入し、利用しているのです。しかし、販売方法も多様化し、社会も複雑化している状況のもと、大量生産・大量販売といった機能が事業者により担われている現代社会の中で、生産者である事業者と、消費者である私たちとは、持てる情報にも差があり、地位としても対等とはいえません。ここに様々なトラブルが生じる可能性があります。どのような法的対応ができるのでしょうか。消費者と法とのかかわりについて学ぶことを目的とします。

内容

1	消費者と法 民法と消費者法
2	消費者契約法
3	特定商取引法
4	未成年者と消費者取引
5	高齢者と消費者取引
6	消費者信用取引
7	多重債務者
8	破産
9	マルチ商法・ネズミ講
10	訪問販売
11	インターネットと悪徳商法
12	コンプライアンスとCSR
13	消費者と裁判・ADR
14	消費者行政・消費者教育
15	定期試験

評価

出席・受講態度(20%)、レポート等提出物(30%)、ペーパーテスト(50%)を総合して評価します。

教科書・推薦書(著者名・書名・出版社名)

野崎和義・徳村美佳『消費者のための法学』ミネルヴァ書房

科目名	デザインとコーディネート		
担当教員名	高間 謙治		
ナンバリング			
学 科	社会情報学部-現代社会コース		
学 年	2,3,4	ク ラ ス	
開 講 期	前期	必修・選択の別	選必, 選択
授 業 形 態		単 位 数	2
資 格 関 係	現代社会コース		

ねらい(科目の性格 科目の概要 学修目標)

現在の私たちは、多種多様なデザインを施された「空間」の中で生活している。

もし、自分で実際にデザインの手法や技術を体得し表現することができるようになれば、インテリアをはじめとするデザインされた「空間」は単に眺め利用するだけのものにとどまらず、創造する対象として、より身近な存在になってくる。

デザインは、これからの社会生活における自己主張のひとつの表現のとしても重要である。

本演習は、インテリアデザインに題材を求めたものが中心になる。主に、平面と立体、室内の色彩計画等の基礎的な演習を通じて、実践的な技術の体得と豊かな空間認識、造形感覚の体得を目指すものである。

但し、使用する機材があるため、人数に制限あり。

内容

1. デザイン概論
2. 生活の中のデザイン
3. 平面のデザイン
4. 色彩と配色
5. 立体の表現
6. 空間のデッサン

等々

評価

出席30点、及び随時の課題、レポートによる評価70点により行い、60点以上を合格とする。

教科書・推薦書(著者名・書名・出版社名)

授業の中で、適時参考文献を紹介する。

科目名	クオリティオブライフ研究		
担当教員名	杉元 葉子		
ナンバリング			
学 科	社会情報学部-現代社会コース		
学 年	2,3,4	ク ラ ス	
開 講 期	後期	必修・選択の別	選択,選必
授 業 形 態		単 位 数	2
資 格 関 係	現代社会コース		

ねらい(科目の性格 科目の概要 学修目標)

今日社会は急激に変化し、また遠く離れた多様な世界が複雑に関わりあうようになってきている。将来の予測はもとより、現時点での諸事象の構造を把握することも困難である。その中で、生活の質を向上させるとはどのようなことなのか明かな解は得にくい。多様な価値の共存を可能にしつつ、未知数の社会をよりよい形に育てようとするしなやかな発想が求められる。そのために生活を本質的に問い直し構成していく基礎的な力、すなわち課題の発見、状況の把握と分析、そして提案をする力を養うことが大切になる。この授業では、生活におけるデザインを切り口にこの方法を実践し、さらにその過程で、先入観を捨てた新鮮な目で生活世界を見なおし、世界を動かす価値観の多様性を知り、自分の世界観を客観的に位置づける柔軟な思考を体験してほしい。

内容

日常生活のさまざまなデザインに関わるテーマに関して、調査・討論などを行いながら、クオリティ・オブ・ライフへのひとつの提案としての記事を雑誌の紙面の形に各自まとめる。途中、トピックス・レクチャーを行いヒントとする。

- 1.オリエンテーション：問題提起
- 2.デザインの発想：意図をもって形をつくること（レクチャー）
機能ということ/美しさということ/継承ということ/エコロジーということ/参加ということ
- 3.フィールドワークの発想：課題は現場にある（レクチャー）
デザインの背景/フィールドサーヴェイ・ヒアリング・アンケート/事象の構造化
- 4.フィールドワークの実践（各自作業+ワークショップ）
*各自設定したテーマに基づき調査（授業時間外）と報告を行なう
- 5.提案の発想：答を現場から見出す（レクチャー+ワークショップ）
思考の論理化/論理からアイデアへ/客観の力・主観の力
- 5.プレゼンテーションの発想：意図をもって表現すること（レクチャー）
伝えることと説得すること/表現の手法
- 6.最終成果品作成（各自作業）および発表・講評
*雑誌紙面（A3、1枚）及び紙面作成の過程にかかわるレポート
- 7.まとめ

評価

出席15点、中間提出物やワークショップへの参加の評価10点、最終成果品（雑誌紙面+レポート）の評価75点、計100点とする。

教科書・推薦書（著者名・書名・出版社名）

科目名	ユースカルチャー研究		
担当教員名	小沢 章友		
ナンバリング			
学 科	社会情報学部-現代社会コース		
学 年	1,2	ク ラ ス	
開 講 期	後期	必修・選択の別	選択, 選必
授 業 形 態		単 位 数	2
資 格 関 係	現代社会コース		

ねらい(科目の性格 科目の概要 学修目標)

時代の波によって絶えず変容していくサブ・カルチャー。今どんなものが若者の心をとらえているのか。さらには、これからどんなものが流行していく兆しを見せているのか。それらの研究を通して、現代日本の文化を自由に、柔軟に考察する。

内容

第一週めに、以下のことを行う。まず現代のユースカルチャーには、どういったテーマがあるのかを話し合う。次に、興味と意欲に応じて、誰が、どのテーマを担当するのかを決める。この場合、一人で担当することもあれば、チームで担当することもある。担当した分野については、各自、あるいはチームで、フィールド・ワークなりなんりの研究スタイルを考える。この演習プランに基づいて、十二週のうち、研究成果を、いつ、どのように発表するのかを決める。

第二週め以降は、実践ステップに移る。各自が、スケジュールに応じて、研究成果を発表したり、途中経過を報告したりする。発表されたものについては、全員で疑問点や意見を述べ合う。こうして各自がテーマをより深化させ、最後の十二週めに、レポートとして完成させる。

評価

出席回数(50点)を演習レポート(50点)と、その熱意と内容で成績を評価する。

教科書・推薦書(著者名・書名・出版社名)

【教科書】 小沢章友 『三国志』講談社青い鳥文庫

【参考図書】小沢章友著作

『龍之介地獄変』新潮社、『運命の環』文芸春秋、『夢魔の森』集英社文庫、『曼荼羅華』講談社、『怪域』朝日新聞社、『荒野狼』徳間書店、『不死』小学館、『極楽鳥』角川春樹事務所、『遊民爺さん』小学館文庫、『ムーン・ドラゴン』理論社

小沢章友の怪異幻想劇場(<http://timebooktown.jp>)ケータイ連載小説

科目名	シニアカルチャー研究		
担当教員名	河合 和		
ナンバリング			
学 科	社会情報学部-現代社会コース		
学 年	1,2	ク ラ ス	
開 講 期	前期	必修・選択の別	選必, 選択
授 業 形 態		単 位 数	2
資 格 関 係	現代社会コース		

ねらい(科目の性格 科目の概要 学修目標)

国連が65歳以上を高齢者と呼ぶようになったのは50年前からであった。当時の我が国の平均寿命は、男性63.60歳、女性67.75歳であった。この寿命を考えれば、65歳以上を高齢者と呼んでも抵抗はない。しかし、今では男性79.19歳、女性85.99歳となった。この50年で、男性は15.59歳、女性は18.24歳長命となった。まさに人生80年時代の到来である。実際、65歳、70歳を高齢者と呼ぶには抵抗がある。その年代には、その年代にふさわしいイキイキとしたカルチャーが息づいている。

「シニアカルチャー」の「シニア」とは、先輩、上級者、年長者を意味する。一方「カルチャー」とは、ラテン語の「耕す」が語源で、和訳は「文化」となる。「耕す」とは植物を育てるための準備を言い、「文化」とは、「自然にあるもの」に、人の手を加えることによって「新しく創り出されたもの」全てを言う。すなわち「カルチャー」とは、新しいものを創り出すための準備ということになる。

では、新しいものを創り出すのは何のためだろうか？ 新しい料理、新しいファッションや音楽、新しい文学等々を創り出すのは何のためだろうか？ その問いに対する一つのこたえが、「年齢を重ねてもいつまでもイキイキと自分らしく」ということになる。あなたが受講する「シニアカルチャー研究」とは、自分らしい生き方を、探し求めるための場であるということになる。

内容

15回の演習をPhase1～4に分け、「シニアカルチャーとは」を考えます。

Phase1(4回)「シニアとは」「カルチャーとは」を考えます。これらを考える際、ジェロントロジー(長寿社会の人間学)と言う学問も共に学びます。

Phase2(4回)「シニアカルチャー」をいろいろな角度から定義してみます。特に「ワークライフバランス」「シニアの社会参加」「自己実現」「アイデンティティ」について掘り下げます。

Phase3(3回) 定義に用いられる、「シニアマーケット」「趣味」「ボランティア活動」について考えます。

Phase4(4回)「いつまでもイキイキと自分らしくありたい」は、人類全ての願いです。この願いについて考えます。

評価

出席40点、レポート60点により評価を行い、60点以上を合格とします。

教科書・推薦書(著者名・書名・出版社名)

科目名	フィールドスタディ「少子高齢社会」		
担当教員名	川口 英俊		
ナンバリング			
学 科	社会情報学部-現代社会コース		
学 年	1,2	ク ラ ス	
開 講 期	通年	必修・選択の別	選必
授 業 形 態		単 位 数	2
資 格 関 係	現代社会コース		

ねらい(科目の性格 科目の概要 学修目標)

確実にやってくる少子高齢化社会であるが、家族の介護などを除いては私たちがそれを実感する機会はなかなかない。フィールドスタディでは社会における少子高齢化問題の最前線に身を置くことにより「知識」+「実感」を得ること、そしてその実感を通じてさらに新たな「知識」を習得する事をねらいとする。

フィールドスタディ履修者はフィールドスタディ科目「少子高齢化と政治」(前期)を履修する。そこで少子高齢化、フィールドスタディに関する基礎知識を得た上で、フィールドスタディに参加する。また、「少子高齢時代の社会保障」(後期)を履修する。これらは1セットとなっており、フィールドスタディ履修者は前期・後期のフィールドスタディ関連科目を履修・単位修得しなければならない。

内容

少子高齢化の現場を訪問してお話を伺ったり、ボランティアを行う。事前に訪問先に関連するレポート等の課題提出、訪問後にフィールドスタディ報告書提出する。

1年間の最後に報告会を行う。

過去の例としては

- ・行政などの少子化対策を担当している部署で対策、問題点などについてのお話を伺う。
- ・地域住民に介護サービスを提供する介護NPOのお話を伺う。
- ・地域の子育て支援NPOのお話を伺う。
- ・特別養護老人ホームなどでのボランティア。

現在のところ、特別養護老人ホームでのボランティアは毎年行っている。

評価

フィールドスタディへの参加(40%)、フィールドスタディ報告書(40%)、報告会発表(20%)などを総合的に評価する。

教科書・推薦書(著者名・書名・出版社名)

【推薦書】

『平成20年版 厚生労働白書』

猪口邦子・勝間和代「猪口さん、なぜ少子化が問題なのですか？」ディスカヴァー・トゥエンティ・ワン

鈴木りえこ「超少子化」集英社新書

科目名	少子高齢時代の社会保障		
担当教員名	宮城 道子		
ナンバリング			
学 科	社会情報学部-現代社会コース		
学 年	1,2	ク ラ ス	
開 講 期	後期	必修・選択の別	選択, 選必
授 業 形 態		単 位 数	2
資 格 関 係	現代社会コース		

ねらい(科目の性格 科目の概要 学修目標)

少子高齢社会、人口減少社会となったわが国において、社会保障・社会福祉は、一部の恵まれない人々への恩恵ではなく、あらゆる人々が生活の安定・安心を実現するために、人生のどこかで関わり、利用するものとなっている。福祉の利用者や福祉サービスを担う人々のイメージも大きく変化した。その結果、社会全体の福祉観も変わりつつある。しかし、社会的文化的性差(ジェンダー)が生活問題の発生に影響していることは変わらない。ジェンダー視点をもって福祉の多様な側面を検討することにより、等身大の福祉社会のあり方を考える。

内容

1	男女共同参画に関する政策と社会保障・社会福祉
2	社会福祉に関する政策・制度の変化とその影響
3	家族と労働の変化 - ワークライフバランス
4	児童の環境と出産・育児支援
5	母子・父子家庭の抱える問題
6	高齢者の自立と介護問題
7	障害者(児)の自立支援に関する問題
8	新たな貧困問題とホームレス
9	在日外国人の生活問題
10	売買春・セクハラ・DVの解決
11	福祉の仕事と教育
12	ボランティア・市民活動・NPOの役割
13	福祉を創りだした女性たち
14	男女共同参画と福祉社会のビジョン - 私のライフプランニングを通じて
15	レポートの報告と講評

評価

出席および意見の発表・討議への参加態度(20点)、期末レポート(80点)とする。

教科書・推薦書(著者名・書名・出版社名)

教科書: 杉本貴代栄『ジェンダーで読む21世紀の福祉政策』有斐閣選書

推薦書: 春日キスヨ『介護とジェンダー』家族社 369.26/K

広井良典『持続可能な福祉社会』岩波新書 364/H

中西正司・上野千鶴子『当事者主権』岩波新書 369.1/N

杉本貴代栄『女性化する福祉社会』勁草書房

杉本貴代栄『ジェンダーで読む福祉社会』有斐閣選書 369/S

科目名	少子高齢化と政治		
担当教員名	川口 英俊		
ナンバリング			
学 科	社会情報学部-現代社会コース		
学 年	1,2	ク ラ ス	
開 講 期	前期	必修・選択の別	選択, 選必
授 業 形 態		単 位 数	2
資 格 関 係	現代社会コース		

ねらい(科目の性格 科目の概要 学修目標)

現在の社会保障制度はいろいろな問題を突きつけられている。日本は戦後、社会保障を充実させてきたが、「私たちの頃には年金はもらえないのではないか?」「日本の介護に関する社会保障は不十分なのでは?」などといった不安を持つ人が増えている。そのような中で、少子高齢化は進行し、様々な問題を深刻化させている。これらの問題に対し政治は適切な対策を取ることができるのだろうか。その対策、課題、政治上の問題などを考える。

内容

- ・少子高齢化とは - 定義、データ、要因
- ・社会保障制度の問題点 - 年金問題、公的介護保険
- ・少子高齢化への新しい取り組み
- 地域コミュニティ主体の介護ケアセンター、介護NPO、外国人労働者の介護分野での活用
- ・少子高齢化問題の政治的側面 - 若者と高齢者の利害衝突、財政危機と福祉の負担
- ・少子高齢化の周辺 - ニート、フリーター、ワーキング・プア、格差社会
- ・少子高齢化対策 - 現行の対策、外国の対策

この科目はフィールドスタディ「少子高齢化社会」関連科目であり、フィールドスタディの基礎知識修得、準備などもこの授業で行われる。フィールドスタディ「少子高齢化社会」履修者は必ず履修する事。

評価

課題などの日常点(70%)、出席点(30%)で評価する。

教科書・推薦書(著者名・書名・出版社名)

授業中にプリント等を配布する。

【推薦書】

『平成20年版少子化社会白書』

『平成20年版高齢社会白書』

山田昌弘「少子社会日本」岩波新書

科目名	フィールドスタディ「環境保全と生活」		
担当教員名	田総 恵子、北原 俊一		
ナンバリング			
学 科	社会情報学部-現代社会コース		
学 年	1,2	ク ラ ス	
開 講 期	通年	必修・選択の別	選必
授 業 形 態		単 位 数	2
資 格 関 係	現代社会コース		

ねらい(科目の性格 科目の概要 学修目標)

人類は産業革命以降の活動により生活を飛躍的に向上させたが、資源やエネルギーの消費により環境を汚染し、地球温暖化を招いた。また分解・吸収されない化学物質やその廃棄物等も蓄積して健康被害を引き起こし、生態系や気象をも狂わせている。現在、人と自然との調和ある関係へ向けて、環境保全が人類共通の課題である。当科目では、人間活動による大気・水の汚染や廃棄物処理等の実態を、現場に出て学び、人・生活の在り方を考える。

内容

1. 環境問題の基礎

公害や環境問題の推移、環境保護に関わる制度とその背景への理解を深める。エネルギーと排出ガス、温室効果ガスと温暖化、緑被率の低下やヒートアイランド現象、また資源循環への取り組みや廃棄物問題も把握し、水についても浄化・再生システムや湧水対策等、質・量の面から考える。

2. フィールド調査

いくつかの分野から選んで、社会の現実の動きを現場で観察・調査して考える。さらに、環境問題への人々の関心を喚起する方法について計画を立て、全国あるいは地域規模で開催される環境保護関連のイベントへの参加を予定している。

3. 調査結果の検討

イベントでのプレゼンテーション結果について話し合い、分析・検討して可能な改善点を探る。また、自分たちの生活の在り方も見直し、身近なところでできることを提案する。

評価

イベント参加(50%)及びレポート(50%)で総合評価。

教科書・推薦書(著者名・書名・出版社名)

必要に応じプリントを配付し、参考書等を紹介する。

科目名	生活環境と経済開発		
担当教員名	田総 恵子		
ナンバリング			
学 科	社会情報学部-現代社会コース		
学 年	1,2	ク ラ ス	
開 講 期	前期	必修・選択の別	選択, 選必, 必修*
授 業 形 態		単 位 数	2
資 格 関 係	中学校教諭一種免許状(社会) / 高等学校教諭一種免許状(公民) / 現代社会コース		

ねらい(科目の性格 科目の概要 学修目標)

環境と経済開発はどんな関係にあるのか。また、どんな関係にあるべきなのか。「環境学」は様々な角度から、この関係を研究している。講義では、生活の中での私たちの日常的な行動が、環境と経済開発の両方にどのように関係しているのか、具体的な例を取り上げて話し合っていきたい。その中で、両者の関係が、国内に留まらず、国際的に広がっている点についても考えていく。

内容

講義では、下記のテーマについて論じていく。

1. 環境：住環境から地球環境まで
2. 環境破壊と経済開発：公害
3. 環境破壊と経済開発：水俣病
4. 環境破壊と経済開発：資源の無駄使い
5. 環境破壊と経済開発：資源の枯渇
6. 環境破壊と経済開発：気候変動
7. 「持続可能な開発」
8. 環境保護と経済開発：省エネルギー
9. 環境保護と経済開発：リサイクル
10. 環境保護と経済開発：エコ・ビジネス
11. 環境保護と経済開発：国際協力
12. “Think Globally, Act Locally”

評価

出席(15%)、レポート(35%)、試験(50%)で総合評価。

教科書・推薦書(著者名・書名・出版社名)

【教科書】加藤尚武 他 『図解スーパーゼミナール・環境学 第2版』東洋経済新報社 2004年

【推薦書】原田正純 『水俣学講義』日本評論社 2004年 493.152/H

【参考図書】瀬戸昌之 他 『文科系のための環境論・入門』有斐閣アルマ 1998年

科目名	生活環境にやさしい商品開発		
担当教員名	北原 俊一		
ナンバリング			
学 科	社会情報学部-現代社会コース		
学 年	1,2	ク ラ ス	
開 講 期	後期	必修・選択の別	選必, 選択
授 業 形 態		単 位 数	2
資 格 関 係	現代社会コース		

ねらい(科目の性格 科目の概要 学修目標)

人類は、快適で便利な生活を求めてエネルギーを消費し、地球の環境を悪化させている。多くの人は、このような生活を続けていくと、資源の枯渇・地球の温暖化などにより、地球に住み続けることはできないという危機感を持っている。ところが現在の便利な生活から、以前の生活レベルに戻すことは、およそ不可能である。

そこで、「循環」と「共生」により、「持続可能な開発」をいかに行っていくかが重要である。この講義では、地球環境悪化の原因とその対策を、特に科学的な視点から捉えていくことにする。

内容

様々な環境問題の中で、エネルギー、ごみ、気候変動の3つについて取り扱う。

1. エネルギーの問題

- ・エネルギーとはどのようなものか
- ・エネルギーの変換と、エネルギー保存の法則(永久機関について)
- ・エネルギーの枯渇問題。“質の良い”エネルギーと“質の悪い”エネルギー
- ・熱エネルギーの取り扱い。ヒートポンプについて。
- ・新エネルギー(太陽光発電、風力発電など)
- ・原子力エネルギーについての長所・短所。

2. ごみの問題

- ・質量保存の法則 - リサイクルの必要性。
- ・可燃ごみの処分。二酸化炭素の循環。
- ・プラスチックについて。
- ・不燃ごみはどのように処分されるか。都市鉱山とはどのような意味か。

3. 地球の環境

- ・他の惑星との比較。地球の恵まれた環境。
- ・地球が温暖になる理由
- ・様々な地球温暖化ガス。気候変動の自然的要因。
- ・地球温暖化の現状。影響と対策。
- ・地球大気について(オゾン層の破壊、酸性雨)。

評価

出席20%、ペーパーテスト80%により評価する。

教科書・推薦書(著者名・書名・出版社名)

授業中に指示する。

科目名	フィールドスタディ「生活と異文化」		
担当教員名	橋本 ヒロ子		
ナンバリング			
学 科	社会情報学部-現代社会コース		
学 年	1,2	ク ラ ス	
開 講 期	通年	必修・選択の別	選必
授 業 形 態		単 位 数	2
資 格 関 係	現代社会コース		

ねらい(科目の性格 科目の概要 学修目標)

文化とは言葉やものの考え方、生活様式などわれわれを取り巻く環境のなかで、人間が作り出したものである。従って、国同士はもちろんのこと、一国のなかでも地域によって異なることもめずらしくない。例えば、若者と高齢者、男性と女性、都市と農村でも異なる文化がある。しかし、最も違いが大きいのは、海外の国々と日本の文化ではないだろうか。海外旅行をした際、また、最近のように海外から移住労働者が多くなると、日常の生活の中で、国際的な異文化について認識せざるを得ない。

フィールドスタディ「生活と異文化」では、多民族ならびに国際的な文化の違いを理解することに焦点をあてる。

内容

異文化、多文化理解を促進する一助とするために次のようなことを予定している。

学内の留学生と交流して、異文化の中での生活と勉学に就いて理解する。

入国管理局を見学して入国管理の現状と問題点を学ぶ。

新大久保のコリアタウンやタウンにある高麗博物館を見学し、多文化社会を肌で感じ、その在り方について考える。

毎年10月最初の土日に、東京の日比谷公園で開催される「グローバルフェスティバル」で、2日間、ボランティアとして活動する。

外務省など日本政府、各国の大使館、国連、ILO、ユネスコなど国際機関、国際NGOなどが参加するので、様々な国の文化の実情を知ることができ、さらにボランティアとして体験を積むこともできる。フェスティバルでの貴重な体験に加えて、ほとんどのボランティアは社会人であるため、その人たちとの交流を通して学ぶことができる。

その他にも地元、新座市や富士見市で活動している国際交流ボランティアグループへの参加も考えている。

評価

活動状況(15%)、レポート(85%)

教科書・推薦書(著者名・書名・出版社名)

その都度、指示する。

科目名	地域生活と法政策		
担当教員名	内野 伸之		
ナンバリング			
学 科	社会情報学部-現代社会コース		
学 年	1,2	ク ラ ス	
開 講 期	後期	必修・選択の別	選択,選必,必修*
授 業 形 態		単 位 数	2
資 格 関 係	中学校教諭一種免許状(社会)/高等学校教諭一種免許状(公民)/現代社会コース		

ねらい(科目の性格 科目の概要 学修目標)

この授業(科目)はフィールドスタディ「生活と異文化」の関連科目なので日本の国内における国際化という観点から考えてみたい。

わが国に在留する外国人は観光や商用などの短期滞在者は別として、一定期間以上滞在する者は外国人登録法により外国人登録が義務づけられており、その数は既に200万人を超えている。加えて短期滞在者や登録義務がありながら未登録と思われる不法残留者などを含めると500万とも600万ともいわれている。

このような状況下で私たちは外国人との共存が現実のものとなっているにもかかわらず、国の外国人政策や法制度は十分整備されているとはいえない。どのような点に問題があるのか、法制度を中心に検討する。

内容

外国人との共生社会を考えるにあたり、おおよそ次のような点を考察する。

- (1) 外国人の出入国管理はどうなっているか。
- (2) 地域住民としての外国人。
- (3) 外国人の雇用、就労、営業。
- (4) 外国人と地域社会(習俗、慣習、環境)
- (5) 外国人と社会保障。
- (6) 外国人と犯罪、捜査、人権。

外国人の居住者が増加するにつれ、以上のような点との関連で市民としての外国人の人権をめぐる裁判も少なからず提起されている。その裁判例にも言及する。

評価

レポート(80%)、出席(20%)で評価する。

教科書・推薦書(著者名・書名・出版社名)

【推薦書】必要に応じて適宜紹介する。

科目名	グローバル化と生活		
担当教員名	橋本 ヒロ子		
ナンバリング			
学 科	社会情報学部-現代社会コース		
学 年	1,2	ク ラ ス	
開 講 期	前期	必修・選択の別	選択, 選必
授 業 形 態		単 位 数	2
資 格 関 係	現代社会コース		

ねらい(科目の性格 科目の概要 学修目標)

「グローバル化」という言葉をよく耳にするようになった。毎日食べているもの、着ているもの、海外旅行、海外からの出稼ぎ労働者の増加、インターネット情報など、あなたがたの生活はグローバル化の影響を大きく受けている。この講義では、身の回りで起こっている、モノ、ヒト、カネ、情報などの「グローバル化」の実態を調べる。さらに、それによって、国内社会や国際社会がどのように変化したか、グローバル化の光と影の両面を探ってみる。

内容

1. グローバリゼーションとはなにか
- 2 - 3. 食べ物 - : 輸入食材はどのような環境破壊や人間の健康破壊を起こしているか? 地産地消とは? フードマイレージとは?
4. 循環型漁業による海産物、有機栽培の野菜・果物とは?
5. 水のグローバル化
6. 衣類・雑貨: 百元ショップの成り立ちと問題点
7. 多国籍企業: マック、トヨタなどは世界のどの国に進出しているか? 多国籍企業の労働者の状況は?
8. 移住労働: 労働の国際化のプラスとマイナス
9. 人身売買と国際犯罪組織
10. カネ: 金融 世界の金融はどのように動いているか、今どこの国の株を買うと利益があるか
11. 知識: グローバル情報の受信と発信
12. 日本で国際交流: 地域における国際交流(ふじみ野国際交流センターの活動)
13. 海外で国際協力
14. グローバリゼーションにより起こる格差と格差への対応
15. 試験

* 必要に応じ、ゲスト講師の講義、レポート作成、発表など、参加型の授業形式を行う。

評価

試験(60%)、課題(20%)、出席カード・ワークシートの記入内容(15%)、出席状況(15%)

教科書・推薦書(著者名・書名・出版社名)

【参考図書】ピエトラ・リポリ著『あなたのTシャツはどこから来たのか? 誰も書かなかったグローバル化の真実』東洋経済新報社 2007年

青木保『多文化世界』岩波新書、2003年 361.6/A

高木郁郎 他『グローバル化と政治のイノベーション』ミネルヴァ書房、2003年 310.4/G

『多文化共生のジレンマ: グローバリゼーションのなかの日本』加藤 秀俊 明石書店 2004

『わたちの21世紀 no.14 グローバル化と女性』アジア女性資料センター

科目名	フィールドスタディ「男女共同参画社会」		
担当教員名	大友 由紀子、亀田 温子		
ナンバリング			
学 科	社会情報学部-現代社会コース		
学 年	1,2	ク ラ ス	
開 講 期	通年	必修・選択の別	選必
授 業 形 態		単 位 数	2
資 格 関 係	現代社会コース		

ねらい(科目の性格 科目の概要 学修目標)

フィールドスタディは、実際の社会の動きを理解するために、その現場に出向いて、現状を捉えて、考えることを基本とします。社会の様々な領域に、また、決定の場面に女性が進出することで、男女が対等な関係を持って職業・家庭・地域生活ができるように、男女共同参画社会づくりが進んでいます。男女が社会の対等なメンバーとして、自らの意思によって社会のあらゆる分野の活動に参画する機会が確保され、均等に利益を享受でき、かつ、共に責任を担う社会を男女共同参画社会とといいます。

こうした状況をつくりだすために、国や自治体などの行政システム、企業、民間のグループや団体といった様々なセクターにおいて、制度づくりとその推進にむけた取り組みが進められています。このフィールドスタディでは、そうした実際の動きを見て、検討することをねらいとしています。

内容

1. 男女共同参画支援施設見学
 - ・女性と仕事の未来館訪問：働く女性のあゆみ展示見学、職業選択シュミレーション体験
2. 女性起業・創業支援の視察
 - ・埼玉県創業支援センター、Mioオフィス、新都心ビジネス交流プラザ訪問：女性起業家による体験談報告会
 - ・埼玉県男女共同参画センター（With Youさいたま）にて女性起業家へのインタビュー
3. 独立行政法人国立女性教育会館におけるイベント参加
 - ・「男女共同参画のための研究と実践の交流推進フォーラム」ワークショップ参加

評価

レポートと課題50点、フィールドでの学習参加30点、報告発表20点。

教科書・推薦書(著者名・書名・出版社名)

【参考図書】

内閣府『男女共同参画白書-男女共同参画の現状と施策-』（平成21年版）、2009年6月頃刊行予定。

科目名	ライフコースと生活設計		
担当教員名	大友 由紀子		
ナンバリング			
学 科	社会情報学部-現代社会コース		
学 年	1,2	ク ラ ス	
開 講 期	前期	必修・選択の別	選択, 選必
授 業 形 態		単 位 数	2
資 格 関 係	中学校教諭一種免許状(社会) / 高等学校教諭一種免許状(公民) / 現代社会コース		

ねらい(科目の性格 科目の概要 学修目標)

女性のライフコースは、家庭生活と職業生活の兼ね合いによって、様々なパターンがあります。女性のライフコース・パターンがどのように変化してきているのか、また、その変化の要因は何かを探ります。ライフコース選択のメカニズムと女性の自立に関する家族社会学の諸学説を学び、実証データに照らして考察を進めます。

内容

ファミリー・ライフサイクルの理論から家族の一生を捉えると、どのような生活設計が可能となるか、古典的な学説と実証研究の事例を合わせて検討します。次いで、個人化、多様化がすすむ今日、ファミリー・ライフサイクルと個人のライフコースとはどのように交錯しているのか、特にライフコース選択と個の自立について、その世代変化と時代変化を考察します。

1. 家族のライフサイクル

ライフサイクルと家族発達

日本人のライフサイクル

ライフサイクルと生活設計

2. 家族のライフステージと発達課題

夫婦関係と発達課題

前期親子関係と発達課題

後期親子関係と発達課題

3. 家族と個人のライフコース

ライフコースとは何か

ライフコースと世代

女性の自立とライフコース選択

評価

授業時の課題提出(20%)と学期末のペーパーテスト(80%)で評価します。

教科書・推薦書(著者名・書名・出版社名)

【推薦書】

森岡 清美『発展する家族社会学 - 継承・摂取・創造』有斐閣、2005年。361.4/M

瓜生 武『家族関係学入門 ケースで学んだ家族のライフコース』日本評論社、2004年。367.3/U

岩上 真珠『ライフコースとジェンダーで読む家族』有斐閣、2003年。367.3/I

科目名	政策決定とジェンダー		
担当教員名	亀田 温子		
ナンバリング			
学 科	社会情報学部-現代社会コース		
学 年	1,2	ク ラ ス	
開 講 期	後期	必修・選択の別	選必, 選択
授 業 形 態		単 位 数	2
資 格 関 係	現代社会コース		

ねらい(科目の性格 科目の概要 学修目標)

フィールド・スタディ「男女共同参画社会」の後半授業として、男女共同参画社会づくりに向けて社会の政策決定がジェンダーの視点を導入したものに变化している動きを、近年の動向をふまえながらその実態をとらえる。実際に女性たちが政策決定の場に「参画」することから、どのような变化が職場や企業、政治や教育やスポーツの領域におきているか、多くの市民の活動やそれを制度作りにつなげる状況を把握する。日本の状況、さらに世界の状況からとらえる。

内容

- 1 社会のルールは誰が作ったか
- 2 - 4 女性の政治参加・参政権獲得の歴史
- 3 - 5 1970年代 国際女性年の動向と女性の地位向上
- 6 国連の女子差別撤廃条約など、制度の確立
- 7 - 9 日本制度改革と、それを動かす市民活動の女性たち
- 10 地域の女性センター、グループの活動
- 11 男女雇用機会均等法成立と改正の動き、など
- 12 家庭生活・育児参加ー父親参加や企業のワークライフバランスの制度づくり
- 13 家族と関係性ーDV防止法、その改正、婚姻にかかわる法改正のうごき
- 14 国籍法改正の動き、諸外国の状況
- 15 NPO活動など新しい制度づくりにかかわる女性たち市民活動の変化

評価

課題提出60点、授業参加状況30点、」出席10点、合計100点で、60点以上が合格。

教科書・推薦書(著者名・書名・出版社名)

参考資料はテーマごとに授業時に紹介する。

科目名	民法の基礎		
担当教員名	阿部 史		
ナンバリング			
学 科	社会情報学部-現代社会コース		
学 年	2,3,4	ク ラ ス	
開 講 期	前期	必修・選択の別	選必, 選択
授 業 形 態		単 位 数	2
資 格 関 係	中学校教諭一種免許状(社会) / 高等学校教諭一種免許状(公民) / 現代社会コース		

ねらい(科目の性格 科目の概要 学修目標)

民法は、個人の社会生活、衣・食・住全般にかかわる最も基本的なルールといえます。家を借りる、洋服を買う、誕生日プレゼントをするといった身近な行為はどれも民法の債権法という分野が取り扱う「契約」に基づいた行為です。この授業は、みなさんに身近な「契約」という行為がどのような法律的な意味内容をもつものかを中心に学び、民法債権法の基本的な理解を図ることを目的とします。

内容

1	債権法のガイダンス及び契約の成立
2	契約の効力： 同時履行の抗弁権、危険負担、第三者のためにする契約
3	契約の解除： 解除の要件・効果、消費者保護とクーリングオフ
4	契約各論(1)： 贈与契約 - 意義・成立・効力・特種の贈与
5	契約各論(2)： 売買契約 - 意義・成立・効力
6	契約各論(3)： 売買契約 - 買戻しについて
7	契約各論(4)： 交換・消費貸借・使用貸借
8	契約各論(5)： 賃貸借契約の意義・期間・効力
9	契約各論(6)： 雇用・委任・その他の典型契約
10	契約以外の債権発生原因(1)： 事務管理・不当利得
11	契約以外の債権発生原因(2)： 不法行為
12	債権総論序説： 債権の目的・内容・種類
13	債権の効力(1)： 強制執行・債務不履行
14	債権の効力(2)： 損害賠償・受領遅滞
15	定期試験

評価

出席・受講態度(20%)、レポート等提出物(20%)、ペーパーテスト(60%)で、総合して評価します。

教科書・推薦書(著者名・書名・出版社名)

『スタートライン債権法』[第4版] 池田真朗(日本評論社)

『デイリー六法』(三省堂) その他の六法でも可

科目名	生活経済		
担当教員名	秋元 真理子		
ナンバリング			
学 科	社会情報学部-現代社会コース		
学 年	1,2	ク ラ ス	
開 講 期	前期	必修・選択の別	選択, 選必
授 業 形 態		単 位 数	2
資 格 関 係	中学校教諭一種免許状(社会) / 高等学校教諭一種免許状(公民) / 現代社会コース		

ねらい(科目の性格 科目の概要 学修目標)

本科目は、将来、消費生活アドバイザーの資格取得を考えておられる方を対象に、消費生活にかかわる基礎知識と情報活用技法の習得を目的としています。消費生活アドバイザーの資格取得を考えておられない方でも、生活と経済のかかわりについて興味ある方はぜひ受講して下さい。

人口減少社会、情報メディアの発達、急速に進むグローバル化、環境との共生など、私たちの生活を取りまく環境はめまぐるしく変化し、さまざまな課題を抱えています。企業にも新しい役割が求められ、生活者の多様な問題解決に対応するために既成概念にとらわれない新しい発想が必要になってきています。消費生活アドバイザーの役割は、生活者と企業のパイプ役になりますが、これからは企業に対して生活者の代弁者となることも求められます。講義ではできるだけ発表やディスカッションの時間を多くとりたいと思います。

内容

初回の講義はオリエンテーション

第1部 くらしの変化と経済(4回)

ここでは、人口構成の変化、家族形態の多様化、消費行動の変化が、経済社会にどのような影響を与えているかをみていきます

第2部 生活者の変化とビジネス(5回)

ここでは、生活者の変化が、製品・サービス開発や、流通ビジネスにどのような影響を与えているかを具体的な事例をとりあげながらみていきます。

第3部 新しい生活者像と生活課題(4回)

消費者問題、環境問題など、生活を取り巻く環境の変化と、新しい生活課題について考えていきます。

最終週は試験日となります。

評価

出席20点、提出物(小レポートなど)20点、ペーパーテスト60点により評価を行い、60点以上を合格とする。

教科書・推薦書（著者名・書名・出版社名）

テキストは使用しません。必要に応じて資料配布、あるいは参考文献を紹介します。

科目名	消費者問題		
担当教員名	竹中 由香		
ナンバリング			
学 科	社会情報学部-現代社会コース		
学 年	1,2	ク ラ ス	
開 講 期	前期	必修・選択の別	選択,選必
授 業 形 態		単 位 数	2
資 格 関 係	現代社会コース		

ねらい(科目の性格 科目の概要 学修目標)

現代社会が抱える課題として、消費者問題を挙げることができる。

いつの時代にも人が生活し、生きていくためには、さまざまな障害・問題があったが、消費者が受ける不利益：すなわち消費者問題は、個人的な問題ではなく資本主義経済機構に内在する問題である。

本講義は、消費者問題の歴史と現状を把握し、その中から消費者問題とは何かを考え、消費者問題の対応策としての消費者運動、消費者行政、消費者保護関係法による規制、消費者教育、事業者の消費者対応について考察し、現代社会について理解を深めることを目標とする。

また消費生活アドバイザー資格取得も視野に入れ、消費者問題領域の理解を深めることもねらいとする。

内容

1	消費者問題の変遷 (VTR)
2	消費者・消費者被害・消費者問題の概念
3	最近の消費者問題の現状
4	消費者問題と消費者運動
5	消費者問題と消費者行政
6	消費者問題を解決するための方策 安全な生活を確保するための方策
7	安全な生活を確保するための具体事例
8	適正な契約関係を確保するための方策
9	適正な契約関係を確保するための具体事例
10	被害救済の意義と救済システム
11	消費者教育の必要性和意義
12	商品テストの意義と活用法
13	事業者の消費者対応の理念
14	事業者の消費者対応-問い合わせ調査
15	まとめ

評価

期末テスト7割、授業の出席状況や小レポート等を3割とし、6割以上を合格とする。

教科書・推薦書(著者名・書名・出版社名)

【推薦書】鈴木深雪『消費者政策 消費生活論』尚学社 365/S

科目名	生活と議会政治		
担当教員名	川口 英俊		
ナンバリング			
学 科	社会情報学部-現代社会コース		
学 年	2,3,4	ク ラ ス	
開 講 期	前期	必修・選択の別	選択,選必,必修*
授 業 形 態		単 位 数	2
資 格 関 係	中学校教諭一種免許状(社会) / 高等学校教諭一種免許状(公民) / 現代社会コース		

ねらい(科目の性格 科目の概要 学修目標)

以下を身につけることをねらいとする。

1.政治過程に関する知識を身につける

私達の将来を決める政治的決定や、決定そのものを決める決定(ルール)、さまざまな状況、世界とのつながり、人のかかわりから決定が生まれてくる。こうした決定に関わるすべてを政治過程と呼び、選挙などを通してこの決定に関わる私たちはその知識を身につける必要がある。

2.ものの見方を学ぶ

知識をおぼえるだけでは充分でない。バラバラの知識をおぼえるだけでなくそれをどう見るかという「ものの見方」が必要となってくる。

3.政治についてデータ・論理に基づいた議論ができるようにする

どの「ものの見方」が正しいかを考えるためには、裏打ちする数字や事実などのデータ、他のものの見方との比較による一つの「論」を作る必要がある。

内容

政治過程

- ・政治制度 - 議院内閣制
- ・立法過程 - 予算と法律、政策決定過程
- ・政策決定システム - 議院内閣制、連立政権

現代日本政治の諸問題

- ・財政赤字と諸問題 - 福祉国家論、小さな政府、財政危機、社会保障
- ・構造改革 - 55年体制、小泉・安倍・福田内閣と麻生内閣、構造改革
- ・2007年参議院選挙とねじれ国会

そのとき問題になっている時事問題は随時取り上げていく。

評価

小試験2回など(70%)、出席点(30%)の総合評価による。

教科書・推薦書(著者名・書名・出版社名)

- 【推薦書】堀江湛『政治学・行政学の基礎知識 第2版』一藝社
 岩井奉信『立法過程』東京大学出版会
 読売新聞政治部「真空国会 - 福田『漂流政権』の深層」新潮社

科目名	生活と行政		
担当教員名	川口 英俊		
ナンバリング			
学 科	社会情報学部-現代社会コース		
学 年	2,3,4	ク ラ ス	
開 講 期	後期	必修・選択の別	選必, 選択
授 業 形 態		単 位 数	2
資 格 関 係	現代社会コース		

ねらい(科目の性格 科目の概要 学修目標)

行政の基礎的知識と行政がどのような役割を果たしているか、どうあるべきかなどを探る。

制度だけを見るのではなく時の内閣の動きなどとあわせ、今の時代をとらえたい。

また、ニュースなどで見る時事問題のキーワードが理解できるようビデオも取り入れていく。

内容

以下の項目について取り上げていく。また時事問題についても随時、取り上げていく。

- ・ 行政とは何か - 行政・司法・立法、公(政府)と私(民間)
- ・ 行政の制度 - 省庁・自治体、法律・条例・政令・行政指導
- ・ 少子高齢化への対応 - 子育て支援、社会福祉、年金問題
- ・ 食と安全 - 遺伝子組み換え食品、食品添加物、食品表示、食品安全基本法、食品安全委員会
- ・ 日本の教育 - 教育行政、教育再生会議、いじめ問題
- ・ 地方自治 - 地方分権、地方財政、三位一体の改革
- ・ 予算形成過程 官僚、予算、日本の予算
- ・ 日本の財政・税制 - 赤字財政、消費税増税問題
- ・ 行政改革 - 公務員制度改革、規制緩和

評価

小試験など(70%)、出席点(30%)等の総合評価による。

教科書・推薦書(著者名・書名・出版社名)

【推薦書】堀江湛『政治学・行政学の基礎知識 第2版』一藝社 311/S

林雄介「省庁のしくみがわかると政治がグンと面白くなる」ナツメ社 317.2/H

西尾勝「行政学」有斐閣 317.1/N

科目名	生活と食文化		
担当教員名	沢野 勉		
ナンバリング			
学 科	社会情報学部-現代社会コース		
学 年	2,3,4	ク ラ ス	
開 講 期	後期	必修・選択の別	選択, 選必
授 業 形 態		単 位 数	2
資 格 関 係	現代社会コース		

ねらい(科目の性格 科目の概要 学修目標)

世界各地には、さまざまな食べものがあり、それぞれ食習慣も異なっている。本講では食を文化の視点で捉えて、各地の食べもの、食習慣、食作法などを比較・考察する。食生活は気候・風土、生産条件、経済などの影響を受けるのは当然だが、これは同時に、その地域の人びとの自然観、宗教、文学や芸術の世界とも深く結びついている。食と人間と社会の関係を広い視野で見つめて、いろいろなジャンルの話題を探して、食の課題を考えていくのが本講のねらいである。

内容

1. 学習の意義；文化と文明 / culture, agriculture, viticulture / 文化人類学の諸分野と食文化
2. 風土と食物；アジアモンスーン地帯の特性 / 和辻哲朗『風土』の問題提起 / 「湿」の文化と「乾」の文化 / わび・さびの自然観 / 「水に流す」と「湯水のように」 / 生在蘇州、住在杭州、衣在上海、食在広州、死在柳州 / ベトナムのフランスパン - 植民地支配と食
3. 食の思想と肉・魚；森の民と豚 - ドイツでのヴルストの発達 / グリム童話にみる食 / 羊の家畜化と遊牧民の生活 / 日本人と魚食 / 宗教と食物禁忌 / イスラム教の豚とヒンズー教の牛 / 仏教と食
4. 日本人と米；宮澤賢治『雨ニモマケズ』にみる米 / 粒食と粉食と食の規制 / しゃもじ権と女性の地位 / 麹文化の発展と微生物工業
5. 日本における東西の食文化；サケ圏とブリ圏 / 食塩摂取の地域差 / 土用のうなぎと牛肉 / ラーメンのだし地域差 / 丸餅と切餅 / 納豆と豆腐
6. 食の道具と食作法；箸食と手食 / パスタとフォーク / 日本の食卓での匙の欠落 / 食器の個用と共用 / 箱膳の知恵 / 食卓でのDIY
7. 食のことばと表現；食べものの雅称と忌みことば / ことわざにみる食生活の知恵 / ネーミング考

評価

出席30点及びレポート70点により評価を行い、60点以上を合格とする。

教科書・推薦書(著者名・書名・出版社名)

テキストは使用せず、主としてノートによる。参考書は随時紹介する。関係用語のプリント配布。

科目名	ユニバーサルデザイン		
担当教員名	角田 真二		
ナンバリング			
学 科	社会情報学部-現代社会コース		
学 年	2,3,4	ク ラ ス	
開 講 期	後期	必修・選択の別	選必,選択
授 業 形 態		単 位 数	2
資 格 関 係	現代社会コース		

ねらい(科目の性格 科目の概要 学修目標)

情報社会が発展すればするほど、高齢者や障害者を取り残されてしまう、デジタルデバインドと言われる現象が問題になってくる。それゆえに、情報弱者となりやすいユーザのために、情報環境を整備する必要がある。そこで、本科目では、マウスやキーボードの使い方などについて、わかりやすく説明するマニュアルを作成したい。

コンピュータを使う人間に重きを置き、コンピュータを使う人間にとってわかりやすい表現をするためには、まず人間特に心理過程について知らなければならない。そこで、人間の心理過程とコンピュータを徹底的に比較、考察したい。さらに、なぜ、コンピュータを使うことが難しいのか、考察したい。最後に、わかりやすく楽しい、具体的なマニュアルを作成したい。

内容

1. オリエンテーション

2. ヒューマンエラー

コンピュータを使っているときの人間のエラーについて、考察する。

3. わからないのは誰のせい?

わかりにくいとはどういうことか、考察する。コンピュータがわからないときに、ユーザが自分の責任にしがちである現状について、考察する。

4. メニュー、アイコン、専門用語

専門用語、アイコン、メニューのわかりにくさについて、考察する。

5. 学習

コンピュータの学習過程において起こりがちな、停滞現象について考察する。

6. マニュアルの作成

マウスやキーボードの使い方をわかりやすく説明する方法について考察し、マニュアルを作成する。

7. まとめ

評価

毎回提出してもらうレポート、150点満点(15回X10点満点)で、90点以上を合格とする

教科書・推薦書(著者名・書名・出版社名)

科目名	地球とエコシステム		
担当教員名	田総 恵子		
ナンバリング			
学 科	社会情報学部-現代社会コース		
学 年	2,3,4	ク ラ ス	
開 講 期	後期	必修・選択の別	選択,選必
授 業 形 態		単 位 数	2
資 格 関 係	現代社会コース		

ねらい(科目の性格 科目の概要 学修目標)

地球環境問題は、身近な生活環境の悪化を原因として発生した問題である。しかし、その改善策を考える際は、単に生活環境を改善して、人間にとって住みやすい環境を作り直すという視点だけでなく、地球の健康、つまりエコシステム(生態系)、という点から見ても望ましい策を考えるという動きが始まっている。この講義では、既に行われている具体的な地球環境保護活動について検討する。さらに、エコシステムに注目する行動の基礎となった環境倫理学の視点や、ディープ・エコロジーといった思想を紹介し、地球の生態系を重視する環境保護政策のあり方について考えてみたい。

環境問題を広く理解するためには、FS 授業科目「生活環境と経済開発」も履修することが望ましい。

内容

講義では、下記のテーマについてそれぞれ1~2回の授業を使って論じていく。

1. 地球環境問題をどう捉えるか
2. 環境保護対策の考え方
3. 国際協力体制の発展
4. 環境問題における国際対立
5. 環境問題と経済格差
6. 環境問題とジェンダー
7. 環境NGO の役割
8. 環境倫理学
9. 生態系を守る環境保護政策

評価

出席(15%)、レポート(60%)、試験(25%)で総合評価。

教科書・推薦書(著者名・書名・出版社名)

【教科書】瀬戸昌之 他 『文科系のための環境論・入門』有斐閣アルマ 1998 年

【推薦書】澤昭裕・関総一郎 編著 『地球温暖化問題の再検証』東洋経済新報社 2004 年 451.35/C

【参考図書】ヴァンダナ・シヴァ 『生物多様性の危機』明石書店 2003 年

科目名	生活とボランティア活動		
担当教員名	佐藤 陽		
ナンバリング			
学 科	社会情報学部-現代社会コース		
学 年	2,3,4	ク ラ ス	
開 講 期	前期	必修・選択の別	選択, 選必
授 業 形 態		単 位 数	2
資 格 関 係	現代社会コース		

ねらい(科目の性格 科目の概要 学修目標)

住み慣れた地域で安心して暮らせるようにするために、ボランティア活動は意義がある。それは、人間が共に豊かに生きていく市民社会の構築につながるものである。

本論は、社会福祉の視点からボランティアコーディネーションのあり方について学習し、自らがボランティアコーディネーターとして実践に臨む基本的な力を養うことをねらいとする。

内容

1	ボランティアについて
2	ボランティアをする、される - 関係性について
3	ボランタリズムの根底にあるもの
4	ボランティア活動の歴史的経緯と現状
5	ボランティア活動の役割について
6	ボランティア学習について
7	ボランティア活動プログラムについて
8	ボランティア活動実践から学ぶ
9	ボランティアセンター機能について
10	ボランティアコーディネーションについて
11	ボランティアコーディネーションについて
12	ボランティアコーディネーションについて
13	ボランティアマネジメントについて
14	ボランティアマネジメントについて
15	ボランティアマネジメントについて

評価

出席(毎回行う授業に対する評価カードの提出)及び授業態度(30点)、レポート(70点)

教科書・推薦書(著者名・書名・出版社名)

講義においてプリントを配布。

【推薦図書】

岡本栄一・菅井直也・妻鹿ふみ子編者 『学生のためのボランティア論』社会福祉法人大阪ボランティア協会出版部

岡本栄一監修 守本友美・河内昌彦・立石宏昭編著 『ボランティアのすすめ基礎から実践まで』 ミネルヴァ書房

科目名	生活とコミュニティ		
担当教員名	大友 由紀子		
ナンバリング			
学 科	社会情報学部-現代社会コース		
学 年	2,3,4	ク ラ ス	
開 講 期	後期	必修・選択の別	選必, 選択
授 業 形 態		単 位 数	2
資 格 関 係	中学校教諭一種免許状（社会） / 高等学校教諭一種免許状（公民） / 現代社会コース		

ねらい（ 科目の性格 科目の概要 学修目標）

コミュニティは都市や農村の地域社会を指すとともに、高度経済成長後の日本社会の社会目標として1970年代に提起された行政用語でもある。近代化・産業化・都市化によって地域社会は、伝統的なコミュニティが卓越する社会から、アソシエーションが卓越する社会へと変貌した。しかし、地域社会における祭礼や伝統文化の継承、町内会組織などの住民による文化活動、環境保全や福祉活動への取り組みなどにおいて、コミュニティ機能の重要性は増している。地域社会を場として展開されている今日的課題を実際の事例に照らして理解する。

内容

1	コミュニティとは何か
2	都市と農村（1）
3	都市と農村（2）
4	市町村合併（1）
5	市町村合併（2）
6	混住化と地方自治（1）
7	混住化と地方自治（2）
8	都市問題
9	都市農村交流（1）
10	都市農村交流（2）
11	環境保全とコミュニティ（1）
12	環境保全とコミュニティ（2）
13	地域福祉とボランティア（1）
14	地域福祉とボランティア（2）
15	コミュニティ再生へむけて

評価

授業時の課題（40%）と学期末のレポート(60%)によって評価する。

教科書・推薦書（著者名・書名・出版社名）

【教科書】堤マサエ、徳野貞雄、山本 努 編著（2008）『地方からの社会学』学文社。

科目名	結婚と家族		
担当教員名	大友 由紀子		
ナンバリング			
学 科	社会情報学部-現代社会コース		
学 年	2,3,4	ク ラ ス	
開 講 期	前期	必修・選択の別	選択,選必,必修*
授 業 形 態		単 位 数	2
資 格 関 係	中学校教諭一種免許状(社会) / 高等学校教諭一種免許状(公民) / 現代社会コース		

ねらい(科目の性格 科目の概要 学修目標)

日本社会は、少子高齢化、未婚晩婚化といった、人口変動によって大きな変貌を余儀なくさせられています。こうした人口変動は、結婚するかしないか、子どもを持つか持たないかといった、家族形成の規準が変わってきていることによって生じます。

日本人の家族形成のあり方が、今どのように変化しているのか、社会統計や社会調査のデータをもとに現象を客観的に把握し、解釈する力を身につけます。結婚と家族に関する社会統計や社会調査のデータにどのようなものがあるのか、それらのデータがどのような理論枠組みに基づいて収集されているか学びます。次いで、それらのデータがどのように解釈され、政策提言の場でどのように活用されているか学びます。

内容

家族のかたち

1. 家族の捉え方(家族の定義、家族と世帯)
2. 家族の類型と分類(核家族、家族の3類型、家族の3分類、家族の類型と分類の関係)
3. 家族形態の変化(核家族化、小家族化、家族外生活者の増加、集団からネットワークへ)

結婚と家族形成

1. 異性交際(異性関係の発達、異性交際の実態)
2. 配偶者選択(配偶者選択のメカニズム、配偶者選択のプロセス)
3. 結婚(結婚の意味、結婚の機能、結婚の分類、日本人の結婚の変化)
4. 離婚(離婚の意味、離婚の動向)

評価

授業時の課題提出(20%)と学期末のペーパーテスト(80%)で評価します。

教科書・推薦書(著者名・書名・出版社名)

【推薦書】

森岡清美・望月 崇『新しい家族社会学』(四訂版)培風館、1997年。361.4/M

湯沢雅彦・宮本みち子『新版データで読む家族問題』日本放送出版協会、2008年。

科目名	家族と法律		
担当教員名	阿部 史		
ナンバリング			
学 科	社会情報学部-現代社会コース		
学 年	2,3,4	ク ラ ス	
開 講 期	後期	必修・選択の別	選択,選必
授 業 形 態		単 位 数	2
資 格 関 係	現代社会コース		

ねらい(科目の性格 科目の概要 学修目標)

民法家族法(親族・相続)の基礎を学びます。現代の日本社会においては、個人の価値観が多様化し、それに伴い家族生活も多様化しています。これは夫婦別姓、シングルマザー、離婚の増加に現れている通りです。また、少子高齢化の進行は今までにない新しい家族の問題を生んでいます。子のない夫婦の養子縁組や人工授精で子どもをもつことには、生物学上および法律上の親子の問題が生じます。認知症で判断力の弱った高齢の親の財産関係については、新しく成年後見制度が設けられました。この授業では、家族法の基礎知識の取得と、現代の家族問題の理解深めることを目的としています。なお、当科目は、法律学基礎および民法入門を既ににあるいは同時に履修していることが望まれます。

内容

1	家族問題と法
2	婚姻と法
3	婚姻と財産
4	離婚と法
5	離婚と財産と子ども
6	親子
7	内縁と認知
8	代理懐胎と法
9	氏と戸籍
10	扶養・成年後見
11	相続 (相続人と相続財産)
12	相続 (法定相続)
13	遺言・遺留分
14	総括 ~女性と家族と法~
15	定期試験

評価

出席・受講態度(20%)、レポート(30%)、ペーパーテスト(50%)を総合して評価します。

教科書・推薦書(著者名・書名・出版社名)

【教科書】『家族の法』 利谷信義 (有斐閣)

【参考図書】『デリー六法』(三省堂) その他の六法も可

科目名	キャリア開発と生活プラン		
担当教員名	亀田 温子		
ナンバリング			
学 科	社会情報学部-現代社会コース		
学 年	2,3,4	ク ラ ス	
開 講 期	前期	必修・選択の別	選択,選必
授 業 形 態		単 位 数	2
資 格 関 係	現代社会コース		

ねらい(科目の性格 科目の概要 学修目標)

女性の社会進出も高まり、長期に多様なかたちで職業生活をおくる女性が増えている。女性にとって職業をどのように考えるかは、現代社会における重要なテーマとなりつつある。職業プランは同時に生活プランを考えることでもあり、それはワーク・ライフ・バランスとしても注目されている。社会人につながる大学教育において、女性たちが職業と関わる知識と力を強め、自身のプラン作りを積極的に行えるようになることが重要であり、その基本となる現在の状況、制度的の実態をとらえ、自分自身のキャリア・ライフプラン作りにつなげる。

内容

- 1 わたしの10年後は・イメージは
- 2 広がる女性の職業進出：働く女性多数の時代、新たな職業への進出
- 3 - 5 就業の長期化と多様な働き方：活躍する40・50歳代の女性たち、派遣、SOHO, 起業など多様な働き方をする女性たち
- 6 - 7 仕事・家庭の両立支援：ワークライフバランス推進企業、両立支援策の実態、企業の支援実態をとらえる
- 8 「ウーマン・オブ・ザ・イヤー」の事例から、現代の動きをとらえる
- 9 女性を支える・支援する女性企業
- 10 - 11 キャリア・パスを考える：長期化による職務の経路、管理職進出
- 12 リーダー論：メンター制度による能力の伸長、管理職進出、管理職研修
- 13 フェアトレードなど社会起業家としての新しい社会づくり
- 14 職業についての自己認識と自己分析
- 15 わたしの10年後は、母親の年齢でのわたしはのプラン作り

評価

課題、レポート60点、授業参加30点、出席10点で合計100点。60点以上が合格。

教科書・推薦書(著者名・書名・出版社名)

授業時に紹介する。

科目名	ジェンダーと開発		
担当教員名	橋本 ヒロ子		
ナンバリング			
学 科	社会情報学部-現代社会コース		
学 年	2,3,4	ク ラ ス	
開 講 期	後期	必修・選択の別	選択,選必
授 業 形 態		単 位 数	2
資 格 関 係	現代社会コース		

ねらい(科目の性格 科目の概要 学修目標)

2008年11月に世界経済フォーラムが発表したジェンダーギャップ指数で日本は130か国中98位でした。貧困、暴力被害、低賃金、家庭役割など、女性が直面する問題は、先進国・開発途上国に関わらず共通する課題が多いのです。一方、女性の大統領、首相などが選出されたり、女性実業家が活躍している国もある。女性の現状や地位に関してビデオや統計データを使って国際的に比較しながら、日本女性の地位がなぜ低いか、なぜ社会に参画していないかを考え解決の方向を探ります。さらに、日本のODAが開発途上国における女性の地位向上を図るために使われているかそのための国際協力のあり方について考えます。

内容

- 1.オリエンテーション、ジェンダーと開発とは何か 人間開発指数 ジェンダー開発指数 ジェンダーエンパワーメント指数、ジェンダーギャップ指数
- 2.女性の人身売買 世界の人身売買の現状、人身売買禁止法の制定に向けて
- 3.女性の人身売買ワークショップ
- 4.政治への参画(議会)、機会均等、アファーマティブ・アクション
- 5.女性のエンパワーメントが何故必要か
- 6.女性と経済：女性・男性の働き方 専門職、管理職 ガラスの天井、セクハラ、働く男女の家族責任のための社会的サポート
- 7.女性の識字・教育を考える：識字(男女、都市農村別、宗教による違い)、就学率、専門分野、女性教員
- 8.女性に対する暴力 DV、女性に対する暴力反対週間
- 9.女性に対する暴力 伝統・文化と女性 文化、風習、人種主義、大峯山の女人禁制(性器切除、名誉殺人など)
- 10.国連安保理決議1325 なぜ女性が紛争解決・平和構築に参加しないといけないか
- 11.女性と貧困 貧困の女性化 先進国と開発途上国の女性の貧困、とりわけ女性高齢者が直面する問題
- 12.女性と健康 HIV aids、家族計画、人口問題 世界人口白書
- 13.女性と環境、女児 中国やインドでなぜ女児が生まれぬか
- 14.実態に沿った開発援助のあり方を考える
- 15.試験

評価

試験の成績(50%)、課題(25%)出席(15%)、ワークシートの内容(10%)

教科書・推薦書(著者名・書名・出版社名)

【推薦書】『世界人口白書 2008』国連人口基金(無料配布) 2008

【参考図書】『人間開発報告書 この多様な世界で文化の自由を 2004』国連開発計画 国際協力出版会 2004

『人間開発報告書2003 ミレニアム開発目標(MDGs)と人間開発』国連開発計画 国際協力出版会 2003

科目名	北アメリカとヨーロッパ地域研究概論		
担当教員名	田総 恵子		
ナンバリング			
学 科	社会情報学部-現代社会コース		
学 年	1,2	ク ラ ス	
開 講 期	後期	必修・選択の別	選必, 選択
授 業 形 態		単 位 数	2
資 格 関 係	現代社会コース		

ねらい(科目の性格 科目の概要 学修目標)

講義の対象となるのは、一般に「西洋」と言われる北米欧地域だが、その地域内でも違いがあり、国々の関係も様々である。最近では、先進国共通の国内社会問題や国際問題への対応で、アメリカとヨーロッパの差が目立つことが多い。授業では、アメリカ、ヨーロッパ主要国の歴史、社会構造、文化に触れながら、国々の間に見られる類似点、差異について説明し、さらに、これら諸国の国際社会における役割についても考える。今年には特に、アメリカに新政権が誕生したこともあり、その政策についてリアルタイムの情報を紹介しながら、説明する。

内容

講義では、下記のテーマについて、その時々情報を交えながら論じていく。

1. 地域研究方法論
2. アメリカの政治社会
3. ヨーロッパ主要国の政治社会：イギリス・ドイツ・フランス等
4. ミドルパワー諸国の政治社会：カナダ等
5. 新しいヨーロッパ諸国：旧東欧
6. 地域統合への動き：E U ・ N A F T A
7. グローバリゼーションの影

評価

出席(15%)、レポート(40%)、試験(45%)で総合評価。

教科書・推薦書(著者名・書名・出版社名)

【教科書】河合秀和 『比較政治入門・改訂版』 有斐閣アルマ、2000年 319.53/N

【推薦書】中西輝政 『アメリカ外交の魂 - 帝国の理念と本能』 集英社、2005年 319.53/N

堤未果 『ルポ 貧困大国アメリカ』 岩波新書、2008年

宮島喬 『ヨーロッパ市民の誕生』 岩波新書、2004年

科目名	日本とアジアの地域研究概論		
担当教員名	橋本 ヒロ子		
ナンバリング			
学 科	社会情報学部-現代社会コース		
学 年	1,2	ク ラ ス	
開 講 期	後期	必修・選択の別	選択, 選必
授 業 形 態		単 位 数	2
資 格 関 係	現代社会コース		

ねらい(科目の性格 科目の概要 学修目標)

世界の人口の60%以上が住むアジアの国々の歴史、政治、経済、人口、社会、宗教、女性の状況などを取り上げ、日本や中国の現状と比較して、アジアの中における日本およびアジア人の一人としての認識を深める。特に、アジアにおける女性起業家に焦点を当てる。具体的な状況把握のために、日本アセアンセンターなど関係機関への見学や女性起業家をゲスト講師としてお招きしてその方の講義も盛り込む。最後にアジア地域の1国を取り上げ、当該国の特定の領域について、もしくは将来起業を考えている学生はその具体的な計画についてレポートを作成する。

内容

大体以下の内容であるが、受講生の関心により対象国/内容を変更する場合がある。

1. 自分とアジアとのかかわり、進め方について、この授業でなにを知りたいか
アジアにどのような国があるか、アジア地域の特徴は何か
2. アジアの国々の比較：先進国、開発途上国、低開発国、小地域による特徴、人口、出生率 【5分間で見る世界の女性アジア】
3. アジアに関する情報の探し方
4. アジアの国々の経済、社会、政治体制など、ネットで調べる。 新聞記事切り抜きと意見の提出 【自立を目指して】
5. アジアの国々の政策決定や経済における女性の状況
6. 男子出産願望に基づく女兒胎児の中絶、間引き、出生登録されない女子、持参金殺人、未亡人差別、男子のみ家・墓の相続 【女たちが語るインド】国連人口基金白書の調査。
7. 経済的自立 グラミン銀行など小規模無償貸与について現状と課題
8. アジアの国々の女性起業について現状を知る。ベンチャー起業と零細女性自営業の組合であるSEWA
8. 女性起業家をゲスト講師としてお話を伺い議論する。
10. スラムの状況、「ゴミに暮らす人々」の視聴 アジアの国々の貧困状況について資料の作成
11. 中国の政治、経済、人口、女性 (中国人留学生の話を聞く)
12. アジアにおける経済協力、地域協力とその機関について
13. アセアンセンターの見学
14. アセアンセンター見学についてレポートの提出と報告
15. 最終レポートの報告

評価

レポート(60%)、課題(25%)、出席・ワークシート(15%)

教科書・推薦書(著者名・書名・出版社名)

【推薦図書】『アジアの女性起業家』アジア女性交流・研究フォーラム 2000

『アジア動向年報 2008』アジア経済研究所 2008

【参考図書】『アジア女性史』アジア女性史国際シンポジウム実行委員会編 明石書店 1997

『中国の女性学』秋山洋子、江上幸子、田端佐和子、前山加奈子 劉草書房 1998

『現代中国の法とジェンダー』何燕侠 尚学社 2005

科目名	中国・華僑社会の人と文化		
担当教員名	胡 祖耀		
ナンバリング			
学 科	社会情報学部-現代社会コース		
学 年	1,2	ク ラ ス	
開 講 期	前期	必修・選択の別	選択, 選必
授 業 形 態		単 位 数	2
資 格 関 係	現代社会コース		

ねらい(科目の性格 科目の概要 学修目標)

グローバル化が進んでいる今日では、中国、海外に居住する華人及び華人社会の文化を理解することは極めて重要になってくる。現在海外にいる華人は一般労働者のみならず企業家、各領域の専門家、政治家などとして居住国の幅広い層に活躍している。本講義では文献資料や映像資料を活用しながら、歴史、文化、政治、経済、社会組織などの側面から華人社会の実像に迫る。

内容

1. 華僑・華人社会の見方
2. 華僑・華人の歴史、地域的分布とその特徴
3. 華僑・華人の政治、文化と生活思想
4. 華僑・華人の宗教、社会組織とネットワーク
5. 摩擦、競合、同化の諸相 東南アジアの例(1)
6. 摩擦、競合、同化の諸相 東南アジアの例(2)
7. 摩擦、競合、同化の諸相 東南アジアの例(3)
8. 華人経済の特色と発展
9. 華人資本と中国の経済成長(1)
10. 華人資本と中国の経済成長(2)
11. 在日華人の経済的、社会的地位の変容(1)
12. 在日華人の経済的、社会的地位の変容(2)
13. 欧米各地の華人社会の現状(1)
14. 欧米各地の華人社会の現状(2)
15. ディスカッション

評価

レポート(60点) 出席(20点) 授業態度(20点)

教科書・推薦書(著者名・書名・出版社名)

【参考図書】

1. 山下清海編著『華人社会がわかる本 中国から世界へ広がるネットワークの歴史、社会、文化』(2005)明石書店.
2. 斯波義信著『華僑』(1995)岩波書店.
3. 遊仲勲 編著『世界のチャイニーズ 膨張する華僑・華人の経済力』(1991)サイマル出版会.

科目名	インターンシップ		
担当教員名			
ナンバリング			
学 科	社会情報学部-現代社会コース		
学 年		ク ラ ス	1Aクラス
開 講 期		必修・選択の別	
授 業 形 態		単 位 数	
資 格 関 係			

ねらい(科目の性格 科目の概要 学修目標)

インターンシップとは、学生が企業等において実習・研修的な就業体験をする制度のことである。大学における社会につながる人材育成の一環として、社会の変化や産業界のニーズに対応し、社会における能力発揮を目的とし、社会とのつながりを考えられる力を育成する。

インターンシップを活用し、職業活動なども視野に入れ、学生自らが職業適性や将来設計について考える貴重な機会としてほしい。

内容

1. 内容

特定企業での勤務体験をめざす「企業体験型」、特定の職種を限定した「職業体験型」、職種や企業にこだわらず職業体験を重視する「労働体験型」などがあり、自己の目的にあったものを行う。学生は企業でのインターンシップの学習プログラムにそって研修を行う。インターンシップはあくまで授業の一環として行われるものであり、アルバイトとは異なる。その意味から実習に対しては無報酬が原則。

2. 実施手順

ガイダンス - 5月上旬に実施されるガイダンスで詳細の説明を行う。参加希望者は必ず出席すること。

実施 - 夏季休暇期間中(前期)、または春季休暇期間中(後期)を中心に約2週間(実質10日、実労60時間以上)

研修を行う。尚、休暇期間以外のインターンシップに参加する際は、ゼミ教員、または、担任教員に事前に相談すること。

申込 - キャリアセンターが受入先の情報提供を行うが、学生が自己開拓で企業を探すことも可能。受入先が確定次第、「インターンシップ申込書」をキャリアセンターに提出。

事前指導 - キャリアセンターがビジネスマナーなどの事前指導を行う。

担当教員 - 2年生はクラス担当教員、3・4年生はゼミ担当教員が期間中に訪問し、巡回指導を原則行う。

3. 実施例

埼玉県庁、新座市役所、戸田市役所、日立製作所、リコー販売、オンワード樫山、蓼科情報、志正堂、廣告社、プリンスホテル、ベルク 他

評価

学生 - 学習の成果をレポートにまとめる。インターンシップ終了後2週間以内に「科目追認願」を教務課に提出し、科目登録を行う。

受入先 - 受入先の担当責任者から実習内容の評価を記した「評価表」を徴求する。又、実施期間中に担当教員が受入先を訪問する巡回指導を原則行い、実施状況をとらえる。

以上、学生のレポート(40点)、受入先評価(40点)、教員による巡回指導の状況確認(20点)を総合的に判断して評価を行い、60点以上を合格とする。

教科書・推薦書(著者名・書名・出版社名)

科目名	インターンシップ		
担当教員名			
ナンバリング			
学 科	社会情報学部-現代社会コース		
学 年		ク ラ ス	2Aクラス
開 講 期		必修・選択の別	
授 業 形 態		単 位 数	
資 格 関 係			

ねらい（ 科目の性格 科目の概要 学修目標 ）

インターンシップとは、学生が企業等において実習・研修的な就業体験をする制度のことである。大学における社会につながる人材育成の一環として、社会の変化や産業界のニーズに対応し、社会における能力発揮を目的とし、社会とのつながりを考えられる力を育成する。

インターンシップを活用し、職業活動なども視野に入れ、学生自らが職業適性や将来設計について考える貴重な機会としてほしい。

内容

1. 内容

特定企業での勤務体験をめざす「企業体験型」、特定の職種を限定した「職業体験型」、職種や企業にこだわらず職業体験を重視する「労働体験型」などがあり、自己の目的にあったものを行う。学生は企業でのインターンシップの学習プログラムにそって研修を行う。インターンシップはあくまで授業の一環として行われるものであり、アルバイトとは異なる。その意味から実習に対しては無報酬が原則。

2. 実施手順

ガイダンス - 5月上旬に実施されるガイダンスで詳細の説明を行う。参加希望者は必ず出席すること。

実施 - 夏季休暇期間中（前期）、または春季休暇期間中（後期）を中心に約2週間（実質10日、実労60時間以上）

研修を行う。尚、休暇期間以外のインターンシップに参加する際は、ゼミ教員、または、担任教員に事前に相談すること。

申込 - キャリアセンターが受入先の情報提供を行うが、学生が自己開拓で企業を探すことも可能。受入先が確定次第、「インターンシップ申込書」をキャリアセンターに提出。

事前指導 - キャリアセンターがビジネスマナーなどの事前指導を行う。

担当教員 - 2年生はクラス担当教員、3・4年生はゼミ担当教員が期間中に訪問し、巡回指導を原則行う。

3. 実施例

埼玉県庁、新座市役所、戸田市役所、日立製作所、リコー販売、オンワード樫山、蓼科情報、志正堂、廣告社、プリンスホテル、ベルク 他

評価

学生 - 学習の成果をレポートにまとめる。インターンシップ終了後2週間以内に「科目追認願」を教務課に提出し、科目登録を行う。

受入先 - 受入先の担当責任者から実習内容の評価を記した「評価表」を徴求する。又、実施期間中に担当教員が受入先を訪問する巡回指導を原則行い、実施状況をとらえる。

以上、学生のレポート（40点）、受入先評価（40点）、教員による巡回指導の状況確認（20点）を総合的に判断して評価を行い、60点以上を合格とする。

教科書・推薦書（著者名・書名・出版社名）

科目名	キャリアサポート		
担当教員名	若山 皖一郎		
ナンバリング			
学 科	社会情報学部-現代社会コース		
学 年	3	ク ラ ス	
開 講 期	前期	必修・選択の別	選択
授 業 形 態		単 位 数	2
資 格 関 係			

ねらい(科目の性格 科目の概要 学修目標)

大学教育とその後の社会人としてのキャリア形成を支援するために、キャリアサポート では就職活動に関わる具体的な基礎力向上を目指した授業を行う。就職活動においてSPIや一般常識は重要な第一歩であり、それをクリアーすることは必要条件となる。こうした基礎知識を、解説を含めてわかりやすく学習し、基礎力向上につなげる。就職活動に必要な学習であるので、多くの学生が受講することが望まれる。

内容

1. SPI概要-SPIとは、SPIの考え方、使われ方など

2. 非言語分野の学習

年齢算、仕事算、旅人算、流水算

グラフ・領域、資料解釈、空間把握

順列組み合わせ、確率、n進法

運動力学など

3. 言語分野の学習

同意語、反対語、ことわざ・慣用句

包含関係、行為関係、原料関係、用途関係

複数の意味、長文問題など

各ステージで言語、非言語の両分野を事例にもとづき解説する。

評価

出席状況(60点)、小テスト(20点)、試験(20点)をもとに総合的に評価を行い、60点以上を合格とする。

教科書・推薦書(著者名・書名・出版社名)

授業時に紹介

科目名	キャリアサポート		
担当教員名	岡本 卓		
ナンバリング			
学 科	社会情報学部-現代社会コース		
学 年	3,4	ク ラ ス	
開 講 期	前期	必修・選択の別	選択
授 業 形 態		単 位 数	2
資 格 関 係			

ねらい(科目の性格 科目の概要 学修目標)

マスメディア界は情報提供のいっそうのスピードアップを求められるとともに、情報の濃密度や内容の信頼性を問われ、メディアの選別時代に入ったと言える。われわれ現代人はそうした超情報化社会を生き抜くためにも、メディアごとのリテラシー(読解力)を備えなければならない。

メディアごとのリテラシーを身に付けていくひとつの道は、まずは新聞、放送、出版、インターネットといった各業界が今日の社会でどのように機能しているかを知ることから始まる。また、マスメディア界は人的資源が財産であり、いかに可能性を秘めた人材をそろえているかが業界での勝ち負け、生き残りを左右する。この意味でマスメディア界がどのような人材を求めているのか、その内部事情を知ることが不可欠である。

授業では、テレビ界出身の本学教員とマスコミへの就職最前線事情に詳しい専門家を中心にして、激変するマスメディア界の現状と将来に関する最新情報を提供する。

内容

1. ガイダンス : マスコミで働くということはどういうことか
2. 現代マスコミ事情: 活字・放送・ネットの業界再編の動き
3. ジャーナリズム : ジャーナリズムの責任/ジャーナリストの仕事・役割
4. 放送局・広告業界の現状と展望
5. 報道(新聞・出版)の変遷
6. 雑誌トレンドファッション
7. 情報タウン誌メディアの興亡
8. 書籍文藝の現況と新たな挑戦
9. コミックアニメージュの変貌
10. 女性誌ヤングファッション考
11. 自己分析と自己表現
12. 企画の立て方・考え方
13. 女性誌市場マーケティング論
14. エントリーシートの現実と書き方
15. 面接試験とその対策

評価

小テストまたはレポート(随時) = 50点 出席率 = 50点 計100点 60点以上が合格

教科書・推薦書(著者名・書名・出版社名)

授業時に紹介する。

注意: 受講希望者多数の場合は人数制限を行うことがある。

科目名	原典講読		
担当教員名	橋本 ヒロ子		
ナンバリング			
学 科	社会情報学部-現代社会コース		
学 年	3	ク ラ ス	1Aクラス
開 講 期	前期	必修・選択の別	必修*
授 業 形 態		単 位 数	2
資 格 関 係			

ねらい(科目の性格 科目の概要 学修目標)

「現代社会コース演習」担当教員が、それぞれの専門分野の基本的文献を選び、学生と共に読み解いていく。文献は、歴史学、法律学、政治学、社会学、ジェンダー論等、広く社会科学の分野から選ばれる。また、外国語文献の場合は、翻訳ではなく原語で講読することもある。

内容

1. 基本的文献の紹介
2. 講読文献の意義
3. 講読
4. レポート発表

評価

出席、レポート、試験、その他

教科書・推薦書(著者名・書名・出版社名)

個々の教員が授業で指示

科目名	原典講読		
担当教員名	亀田 温子		
ナンバリング			
学 科	社会情報学部-現代社会コース		
学 年	3	ク ラ ス	1Bクラス
開 講 期	前期	必修・選択の別	必修*
授 業 形 態		単 位 数	2
資 格 関 係			

ねらい(科目の性格 科目の概要 学修目標)

「現代社会コース演習」担当教員が、それぞれの専門分野の基本的文献を選び、学生と共に読み解いていく。文献は、歴史学、法律学、政治学、社会学、ジェンダー論等、広く社会科学の分野から選ばれる。また、外国語文献の場合は、翻訳ではなく原語で講読することもある。

内容

1. 基本的文献の紹介
2. 講読文献の意義
3. 講読
4. レポート発表

評価

出席、レポート、試験、その他

教科書・推薦書(著者名・書名・出版社名)

個々の教員が授業で指示

科目名	原典講読		
担当教員名	大友 由紀子		
ナンバリング			
学 科	社会情報学部-現代社会コース		
学 年	3	ク ラ ス	10クラス
開 講 期	前期	必修・選択の別	必修*
授 業 形 態		単 位 数	2
資 格 関 係			

ねらい(科目の性格 科目の概要 学修目標)

「現代社会コース演習」担当教員が、それぞれの専門分野の基本的文献を選び、学生と共に読み解いていく。文献は、歴史学、法律学、政治学、社会学、ジェンダー論等、広く社会科学の分野から選ばれる。また、外国語文献の場合は、翻訳ではなく原語で講読することもある。

内容

1. 基本的文献の紹介
2. 講読文献の意義
3. 講読
4. レポート発表

評価

出席、レポート、試験、その他

教科書・推薦書(著者名・書名・出版社名)

個々の教員が授業で指示

科目名	原典講読		
担当教員名	田総 恵子		
ナンバリング			
学 科	社会情報学部-現代社会コース		
学 年	3	ク ラ ス	2Aクラス
開 講 期	後期	必修・選択の別	必修*
授 業 形 態		単 位 数	2
資 格 関 係			

ねらい(科目の性格 科目の概要 学修目標)

「現代社会コース演習」担当教員が、それぞれの専門分野の基本的文献を選び、学生と共に読み解いていく。文献は、歴史学、法律学、政治学、社会学、ジェンダー論等、広く社会科学の分野から選ばれる。また、外国語文献の場合は、翻訳ではなく原語で講読することもある。

内容

1. 基本的文献の紹介
2. 講読文献の意義
3. 講読
4. レポート発表

評価

出席、レポート、試験、その他

教科書・推薦書(著者名・書名・出版社名)

個々の教員が授業で指示

科目名	原典講読		
担当教員名	川口 英俊		
ナンバリング			
学 科	社会情報学部-現代社会コース		
学 年	3	ク ラ ス	2Bクラス
開 講 期	後期	必修・選択の別	必修*
授 業 形 態		単 位 数	2
資 格 関 係			

ねらい(科目の性格 科目の概要 学修目標)

「現代社会コース演習」担当教員が、それぞれの専門分野の基本的文献を選び、学生と共に読み解いていく。文献は、歴史学、法律学、政治学、社会学、ジェンダー論等、広く社会科学の分野から選ばれる。また、外国語文献の場合は、翻訳ではなく原語で講読することもある。

内容

1. 基本的文献の紹介
2. 講読文献の意義
3. 講読
4. レポート発表

評価

出席、レポート、試験、その他

教科書・推薦書(著者名・書名・出版社名)

個々の教員が授業で指示

科目名	原典講読		
担当教員名	阿部 史		
ナンバリング			
学 科	社会情報学部-現代社会コース		
学 年	3	ク ラ ス	2Cクラス
開 講 期	後期	必修・選択の別	必修*
授 業 形 態		単 位 数	2
資 格 関 係			

ねらい(科目の性格 科目の概要 学修目標)

「現代社会コース演習」担当教員が、それぞれの専門分野の基本的文献を選び、学生と共に読み解いていく。文献は、歴史学、法律学、政治学、社会学、ジェンダー論等、広く社会科学の分野から選ばれる。また、外国語文献の場合は、翻訳ではなく原語で講読することもある。

内容

1. 基本的文献の紹介
2. 講読文献の意義
3. 講読
4. レポート発表

評価

出席、レポート、試験、その他

教科書・推薦書(著者名・書名・出版社名)

個々の教員が授業で指示

科目名	演習		
担当教員名	橋本 ヒロ子		
ナンバリング			
学 科	社会情報学部-現代社会コース		
学 年	3	ク ラ ス	1Aクラス
開 講 期	前期	必修・選択の別	必修*
授 業 形 態		単 位 数	2
資 格 関 係			

ねらい(科目の性格 科目の概要 学修目標)

21世紀の日本社会は、女性の時代と言われている。そのため、これまでのような「男はしごと、女は家庭」という性別役割分担ではなく、一人一人の男女が仕事も子育ても楽しめるワークライフバランスが可能な社会づくりが急務となっている。

とりわけ、日本社会は少子化が急激に進み、女性が仕事だけでなく、子育てもできるような社会のシステム作りが急務となっている。

橋本ゼミでは、ワークライフバランスについて研究することに加えて、以下を目標として活動する。

社会に出て通用する基本的な知恵と知識・技術を持ち、自立した女性として育つ。毎週1回のゼミだけでなく、学外活動、ゼミ合宿、学園祭、ゼミ論作成、卒論作成などのゼミ活動を通して大学時代の思い出を作る。

内容

前期

- 1.ワークライフバランスに関する基本的な文献購読
- 2.文献・情報の探し方
- 3.ゼミ論の書き方について
- 4.論文の評価法
- 5.テーマの設定
- 6.裁判・国会の傍聴、国際セミナーへの参加など

夏休み合宿(国立女性教育会館または江ノ島)

- 1.資料・データの検索
- 2.資料の読み取り

後期

- 1.調査等によるデータ収集が必要な場合は調査の実施
- 2.第1次草稿のまとめ・発表:パワーポイントによる(一回3人)・討論・講評
- 3.第2次草稿のまとめ・発表(同上)
- 4.最終論文の作成・提出(15000-20000字 図表等も含む)

学園祭でのイベント企画・実施 女性の起業の実地体験。売り上げの一部を開発途上国の女性の教育に寄付する。

評価

出席(10%)、ゼミでの発表内容(20%)、ゼミでの議論への貢献(10%)、ゼミ論の内容(60%)

教科書・推薦書(著者名・書名・出版社名)

【推薦書】『男女共同参画と男性・男児の役割』明石書店 2007

【参考書】各自のテーマごとに指示する。

科目名	演習		
担当教員名	亀田 温子		
ナンバリング			
学 科	社会情報学部-現代社会コース		
学 年	3	ク ラ ス	1Bクラス
開 講 期	前期	必修・選択の別	必修*
授 業 形 態		単 位 数	2
資 格 関 係			

ねらい(科目の性格 科目の概要 学修目標)

演習 の3年前期は、ジェンダー論、消費社会論、職業と女性論などの基本論文を購読することによるグループ学習を行う。「人を読む、社会の仕組みを読む」をテーマとしているので、論文、新聞、などの資料を用いて、現代社会における消費文化、人を動かす社会の仕組みや制度の関連を読み解く力をつける。また現代の女性たちの状況をとらえ、女性と職業・社会のつながりについて、日本、諸外国の状況をとらえるなど、後期の卒業研究テーマ設定に向けての基礎学習とする。

内容

1	オリエンテーション：学習課題、グループ学習について
2	ゼミの学習方法：レジュメ作成、発表方法、議論について
3	基礎テキスト（消費社会論、消費文化論）の購読
4	基礎テキスト、文献の購読
5	基礎テキストをもとにした議論
6	基礎テキスト（女性と職業関連）の購読
7	論文、新聞記事の購読
8	関連テーマの論文・新聞記事検索を行い、リスト作成
9	「女性情報」からの情報収集
10	テキスト・資料を基にした議論
11	テーマについての議論、KJ法による議論の整理
12	関連領域資料の検索、追加論文購読
13	追加論文購読
14	基本学習からの報告・プレゼン
15	まとめ

評価

発表50点、資料作成10点、討論への参加30点、出席状況10点の合計100点。60点以上を合格とする。

教科書・推薦書（著者名・書名・出版社名）

テーマによる授業時に紹介する。

科目名	演習		
担当教員名	田総 恵子		
ナンバリング			
学 科	社会情報学部-現代社会コース		
学 年	3	ク ラ ス	10クラス
開 講 期	前期	必修・選択の別	必修*
授 業 形 態		単 位 数	2
資 格 関 係			

ねらい(科目の性格 科目の概要 学修目標)

この演習では、環境問題と国際社会の両方、あるいは、どちらか一方に関連したテーマを取り上げる。グローバル化が進む中、身近な生活環境問題も地球環境問題との関係抜きには議論できず、国際社会の出来事と日本国内の動きも密接な関係を持つようになってきた。どちらに関連するテーマでも、地域社会、国、国際社会などのレベルでの動きを検討し、個々の問題の特徴を捉えていく。個人のレベルでの行動が国や国際社会レベルの問題にどのように関連しているか、現代社会の問題を体系的に捉える視点を重視したい。

同時に、問題設定から調査法、結果のまとめ方など、レポート、論文の書き方の基本についても学んでいく。

内容

- 第1回～第5回：基本的文献についての討論
- 第6回～第10回：参考文献、情報の収集方法
- 第11回～第13回：論文のまとめ方(ゼミ・レポート執筆)
- 第14回：ゼミ・レポート提出
- 第15回：レポート講評

評価

出席(15%)、発表・討論への参加(15%)レポート(70%)で総合的に評価

教科書・推薦書(著者名・書名・出版社名)

【推薦書】三浦永光 『国際関係の中の環境問題』 有信堂 2004年 519.1/K

【参考図書】賀来弓月 『地球化時代の国際政治経済』 中公新書 1995年

科目名	演習		
担当教員名	大友 由紀子		
ナンバリング			
学 科	社会情報学部-現代社会コース		
学 年	3	ク ラ ス	1Dクラス
開 講 期	前期	必修・選択の別	必修*
授 業 形 態		単 位 数	2
資 格 関 係			

ねらい(科目の性格 科目の概要 学修目標)

社会学の中でも実証研究によって成果をあげてきた家族社会学について研究を深める。具体的な研究領域としては、家族調査、家族構造、家族規範、家族変動、家族関係、家族意識、家族周期、ライフコース、生活史、配偶者選択と結婚、家族慣行、ライフスタイル、家族ネットワークなどがある。また、この他にも地域、生活構造、人口、世代などについての実証研究も可能である。

内容

社会学の実証的な研究論文を読み込み、その内容についてディスカッションすることで、各自の卒業研究のテーマを模索する。毎時間テキストの一章分を取り上げ、数人のレポーターが内容を報告し、参考文献に照らしてコメントする。レポーター以外の者は問題点を指摘し、討論に参加する。なお、テキストは参加学生の問題関心にもとづいて決める。前年度の場合は、岩村暢子(2007)『普通の家族がいちばん怖い』新潮社を取り上げた。

夏季休暇中、合宿にて視察研修を実施する。視察研修内容は、参加学生自ら企画する。これまでに実施した事例として、韓国ソウル市内にて東国大学日本語専攻女子学生との交流、沖縄の伝統文化とリゾート開発、飛騨高山合掌集落における大家族制、北海道における移住促進事業、横浜市のまちづくりとボランティア活動などがある。

評価

授業中の発表や討議(50%)と学期末のレポート(50%)によって評価する。

教科書・推薦書(著者名・書名・出版社名)

【教科書】

参加学生の関心に照らして、授業時に指示する。

科目名	演習		
担当教員名	川口 英俊		
ナンバリング			
学 科	社会情報学部-現代社会コース		
学 年	3	ク ラ ス	1Eクラス
開 講 期	前期	必修・選択の別	必修*
授 業 形 態		単 位 数	2
資 格 関 係			

ねらい(科目の性格 科目の概要 学修目標)

社会のいろいろな問題を考えていくには様々な視点と方法がある。この授業では具体的な対象をデータや論理によって判断していく力を身につけることをねらいとしたい。たとえば、政府の政策の目的は何であり、それに対しどのように具体的政策が取られ、どのような結果・効果を生じているか、それは適切なのか、など。

内容

- ・ 現在起こっている諸問題の理解 - 資料などを提示しそれをもとに検討する、自分で調べまとめ発表する、議論の仕方などを勉強する。
- ・ ゼミ論 - 自分でテーマを設定しレポートを作成、その内容をゼミで発表・議論する。その中から文章を作成していく。
- ・ 時事問題 - 各自の関心・視点による切り口から問題提起を行い質問・議論を行う事によって理解を深める。
- ・ ディベート - 効果的な討論の仕方を学ぶ。

評価

出席(40%)とゼミでの発表・提出物(60%)の総合評価による。

教科書・推薦書(著者名・書名・出版社名)

【推薦書】岩井奉信『立法過程』東京大学出版会 311.08/G/12

村上陽一郎「新しい科学論」講談社ブルーバックス

橋木俊詔「格差社会」岩波新書 304/T

科目名	演習		
担当教員名	阿部 史		
ナンバリング			
学 科	社会情報学部-現代社会コース		
学 年	3	ク ラ ス	1Fクラス
開 講 期	前期	必修・選択の別	必修*
授 業 形 態		単 位 数	2
資 格 関 係			

ねらい(科目の性格 科目の概要 学修目標)

消費者問題・情報化社会・家族経営などの身近なテーマを法的な観点から取り上げます。契約を中心として私法の分野からのアプローチをしてゆきます。広く社会に関心を持ち、現状を踏まえ、それらをめぐる法律はどのようになっているのか、法の目的や紛争解決手段を学びます。文献購読、参加者による報告、ディスカッションを通じて、歴史的な背景や現在の社会をめぐる状況からその機能・限界を踏まえて展望について研究します。4年の卒業研究へむけてのテーマを見つけてゆきます。

内容

日常生活でも仕事をしていく上でも重要な「契約」や「紛争解決制度」等を素材に研究を進めます。指定の文献を事前に必ず読んでいることが全員に要求されます。担当レポーターは制度・事案を整理してレジュメを作成し報告します。それを踏まえて参加者による積極的な質疑応答・ディスカッションを通じて、理解を深めます。後期は、通常の報告と同時並行して卒業研究のテーマ選び、卒業研究のテーマに関する研究・調査の準備を行ないます。卒業研究の準備として、選択したテーマにつき、後期終了時まで、各自ゼミ・レポートを作成します。

評価

授業中の発表(30%)・報告・議論への参加態度(30%)、前期・後期のレポート(40%)により評価します。

教科書・推薦書(著者名・書名・出版社名)

参加学生の関心に照らし、授業時に指示します。

科目名	演習		
担当教員名	橋本 ヒロ子		
ナンバリング			
学 科	社会情報学部-現代社会コース		
学 年	3	ク ラ ス	2Aクラス
開 講 期	後期	必修・選択の別	必修*
授 業 形 態		単 位 数	2
資 格 関 係			

ねらい(科目の性格 科目の概要 学修目標)

21 世紀の日本社会は、女性の時代と言われている。そのため、これまでのような「男はしごと、女は家庭」という性別役割分担ではなく、一人一人の男女が仕事も子育ても楽しめるワークライフバランスが可能な社会づくりが急務となっている。

とりわけ、日本社会は少子化が急激に進み、女性が仕事だけでなく、子育てもできるような社会のシステム作りが急務となっている。

橋本ゼミでは、ワークライフバランスについて研究することに加えて、以下を目標として活動する。

社会に出て通用する基本的な知恵と知識・技術を持ち、自立した女性として育つ。毎週1回のゼミだけでなく、学外活動、ゼミ合宿、学園祭、ゼミ論作成、卒論作成などのゼミ活動を通して大学時代の思い出を作る。

内容

夏休み合宿(国立女性教育会館または江ノ島)

- 1.資料・データの検索
- 2.資料の読み取り

後期

- 1.調査等によるデータ収集が必要な場合は調査の実施
- 2.第1次草稿のまとめ・発表:パワーポイントによる(一回3人)・討論・講評
- 3.第2次草稿のまとめ・発表(同上)
- 4.最終論文の作成・提出(15000-20000字 図表等も含む)

学園祭でのイベント企画・実施 女性の起業の実地体験。売り上げの一部を開発途上国の女性の教育に寄付する。

評価

出席(10%)、ゼミでの発表内容(20%)、ゼミでの議論への貢献(10%)、ゼミ論の内容(60%)

教科書・推薦書(著者名・書名・出版社名)

【推薦書】『男女共同参画と男性・男児の役割』明石書店 2007

【参考書】各自のテーマごとに指示する。

科目名	演習		
担当教員名	亀田 温子		
ナンバリング			
学 科	社会情報学部-現代社会コース		
学 年	3	ク ラ ス	2Bクラス
開 講 期	後期	必修・選択の別	必修*
授 業 形 態		単 位 数	2
資 格 関 係			

ねらい(科目の性格 科目の概要 学修目標)

3年後期の演習 では、前期から展開できることで各自関心をもつテーマを設定し、関連の社会事象をとらえる方法についても学ぶ。卒論につなげるテーマを設定し、各自関連の資料を収集し、演習レポートを作成し、卒業研究につなげる学習をおこなう。またゼミ・メンバーによる議論、意見交換などを充分に行い、共通テーマによるゼミ作品を作り、論文の事前学習とする。

内容

- 1 前期の学習ふりかえりをもとした、導入
- 2 - 4 各自のテーマ設定検討の発表
- 5 - 7 問題意識、社会現象をとらえる視点の拡大
- 8 基本文献の検索によるテーマの確定
- 9 - 11 テーマ、仮説、方法の検討 を各自行い、報告
- 12 卒論についての4年生との交流会
- 13 - 14 演習レポートの作成(卒論準備レポート)
- 15 レポート報告会

評価

テーマ設定・レポート作成が50点、論文作成に向けて参加度20点、報告などプレゼン20点、出席10点の合計100点。60点以上を合格とする。

教科書・推薦書(著者名・書名・出版社名)

科目名	演習		
担当教員名	田総 恵子		
ナンバリング			
学 科	社会情報学部-現代社会コース		
学 年	3	ク ラ ス	2Cクラス
開 講 期	後期	必修・選択の別	必修*
授 業 形 態		単 位 数	2
資 格 関 係			

ねらい(科目の性格 科目の概要 学修目標)

演習 で、環境問題と国際社会の両方、あるいは、どちらか一方に関連したテーマを取り上げて話し合い、個々に論文のテーマになりそうな分野を絞り始めている。演習 では、それぞれのテーマについてさらに話し合い、卒業論文につながる研究、調査の計画を立てていく。個々のテーマ、調査法について互いに意見を述べ合う機会を重視して、議論中心に演習を進める。学期末に発表する論文は、卒業研究の第1段階と位置づけられるものとする。

要望があれば、学園祭等でそれまでの調査結果を発表することも支援する。

内容

第1回～第4回：後期ゼミ・レポートのテーマ選択、問題提起

第5回：テーマ発表

第6回～第13回：リサーチの経過報告・卒論への展開

第14回：レポート体裁確認・提出

第15回：レポートの最終発表

評価

出席(15%)、発表・討論への参加(15%)レポート(70%)で総合的に評価

教科書・推薦書(著者名・書名・出版社名)

【推薦書】小笠原喜康 『大学生のためのレポート・論文術』 講談社現代新書 2002年

【参考図書】戸田山和久 『論文の教室 - レポートから卒論まで』 NHKブックス 2002年

科目名	演習		
担当教員名	大友 由紀子		
ナンバリング			
学 科	社会情報学部-現代社会コース		
学 年	3	ク ラ ス	2Dクラス
開 講 期	後期	必修・選択の別	必修*
授 業 形 態		単 位 数	2
資 格 関 係			

ねらい(科目の性格 科目の概要 学修目標)

3年次前期の演習 に続けて、社会学の中でも実証研究によって成果をあげてきた家族社会学について、より研究を深める。4年次に仕上げる卒業研究について、各自の研究テーマを絞り、そのテーマについての先行研究、既存資料を整理する。

内容

1. 家族社会学や社会学の学会誌、例えば、『家族社会学研究』、『家族問題研究』、『社会学評論』などから、各自の関心あるテーマの研究論文を探し、論文一覧を作成し、それぞれの論文を要約する。
2. インターネットを使って、総務省統計局や厚生労働省の官庁統計のうち、関心領域のデータについて検索し、整理する。
3. 情報資料センター所蔵の『朝日新聞データベース』を使って、各自の関心テーマに関連する過去の新聞記事を検索し、記事一覧を作成し、それぞれの記事を要約する。

評価

授業中の発表や討議(40%)と学期末のレポート(各60%)によって評価する。

教科書・推薦書(著者名・書名・出版社名)

【教科書】参加学生の関心に照らして、授業時に指示する。

科目名	演習		
担当教員名	川口 英俊		
ナンバリング			
学 科	社会情報学部-現代社会コース		
学 年	3	ク ラ ス	2Eクラス
開 講 期	後期	必修・選択の別	必修*
授 業 形 態		単 位 数	2
資 格 関 係			

ねらい(科目の性格 科目の概要 学修目標)

社会のいろいろな問題を考えていくには様々な視点と方法がある。この授業では具体的な対象をデータや論理によって判断していく力を身につけることをねらいとしたい。

内容

- ・現在起こっている諸問題の理解 - 資料などを提示しそれをもとに検討する、自分で調べまとめ発表する、議論の仕方などを勉強する。
- ・ゼミ論 - 自分でテーマを設定しレポートを作成、その内容をゼミで発表・議論する。その中から文章を作成していく。
- ・時事問題 - 各自の関心・視点による切り口から問題提起を行い質問・議論を行う事によって理解を深める。
- ・ディベート - 効果的な議論の仕方を学ぶ。

評価

出席(40%)とゼミでの発表・提出物(60%)の総合評価による。

教科書・推薦書(著者名・書名・出版社名)

【推薦書】岩井奉信『立法過程』東京大学出版会 311.08/G/12

村上陽一郎「新しい科学論」講談社ブルーバックス

橋木俊詔「格差社会」岩波新書 304/T

科目名	演習		
担当教員名	阿部 史		
ナンバリング			
学 科	社会情報学部-現代社会コース		
学 年	3	ク ラ ス	2Fクラス
開 講 期	後期	必修・選択の別	必修*
授 業 形 態		単 位 数	2
資 格 関 係			

ねらい(科目の性格 科目の概要 学修目標)

消費者問題・情報化社会・家族経営などの身近なテーマを法的な観点から取り上げます。契約を中心として私法の分野からのアプローチをしてゆきます。広く社会に関心を持ち、現状を踏まえ、それらをめぐる法律はどのようになっているのか、法の目的や紛争解決手段を学びます。文献購読、参加者による報告、ディスカッションを通じて、歴史的な背景や現在の社会をめぐる状況からその機能・限界を踏まえて展望について研究します。4年の卒業研究へむけてのテーマを見つけてゆきます。

内容

日常生活でも仕事をしていく上でも重要な「契約」や「紛争解決制度」等を素材に研究を進めます。指定の文献を事前に必ず読んでいることが全員に要求されます。担当レポーターは制度・事案を整理してレジュメを作成し報告します。それを踏まえて参加者による積極的な質疑応答・ディスカッションを通じて、理解を深めます。後期は、通常の報告と同時並行して卒業研究のテーマ選び、卒業研究のテーマに関する研究・調査の準備を行ないます。卒業研究の準備として、選択したテーマにつき、後期終了時まで、各自ゼミ・レポートを作成します。

評価

授業中の発表(30%)・報告・議論への参加態度(30%)、前期・後期のレポート(40%)により評価します。

教科書・推薦書(著者名・書名・出版社名)

参加学生の関心に照らし、授業時に指示します。

科目名	卒業研究		
担当教員名	橋本 ヒロ子		
ナンバリング			
学 科	社会情報学部-現代社会コース		
学 年	4	ク ラ ス	1Aクラス
開 講 期	前期	必修・選択の別	必修*
授 業 形 態		単 位 数	2
資 格 関 係			

ねらい(科目の性格 科目の概要 学修目標)

日本及び諸外国における政治・社会・経済・文化などの諸問題について、ジェンダーの視点で分析した卒業論文を完成させる。4年の夏休みの終わりまでに第1次草稿、12月中旬の卒論締め切りまでに最終論文を提出。

内容

01年度生以降の卒論テーマは以下の通りです。

01年度生：女性活用と企業／女性起業家／CMに見る女性像／摂食障害／児童虐待／DV加害者の更正／グリム童話のジェンダー分析／ストーカー被害／男性の育児休業

02年度生：ひとり親家庭に対する支援／家庭教育における役割分担：日本と中国の役割分担の比較研究／キャリア開発における日中女性の比較／日本と中国の若い女性の意識の比較／少子化問題と男性の育児参加／仕事と育児の両立支援の推進：地方自治体と企業に焦点をあてる／ドメスティック・バイオレンス：被害者女性に対する自立支援／アパレル業界で活躍する女性と彼女たちの成功要因

03年度生：街のバリアフリー～駅のバリアフリー化／女性のパートタイム労働：管理職や専門職への登用／メディアにおけるスポーツ女性の表現／女性管理職 企業の取り組みと今後のあり方／魔女狩りの歴史 現代の魔女狩りとは／女子学生のファッションの現状と課題／児童文学に描かれた家族像／ダイエットと摂食障害／大卒女性のライフコース／CMのジェンダー分析／夫婦選択別姓

04年度生：仕事と育児によって男女間で格差が生まれてしまうのは何故なのか：家庭生活の側面から分析／アジアにおける人身売買犠牲者のエイズ問題について／キャンパス・セクシュアル・ハラスメント～現状と大学の課題～／子どもに対する性暴力の実態と対策／子どもの孤食～なぜ、一人で食べるのか～／フェアトレードの課題：有機コーヒーに焦点をあてて／国際結婚カップルの子育てにみるエスニシティ - 中国人女性と韓国女性との比較調査より -

05年度生：子育てとジェンダー～男性が子育てに参加できる社会とは～／メディアとジェンダー～テレビアニメを中心として～／Comparative Study on Primary School Children in Jap

an and Canada/ 女人禁制の歴史と現状 - 大峰山に焦点を当てて - / 遊郭と呼ばれた花街島原～女性による文化継承～/ 現代中国女性の労働意識 専業主婦の出現と今後の動向/ 中国人の観光旅行に関する一考察/ 中国における一人っ子政策/ ホスピタリティについて～ホテルのサービスに焦点を当てて～/ ピンクリボン運動の現状と課題

評価

出席(10%)、論文の内容(70%)、ゼミ活動への貢献(20%)

教科書・推薦書(著者名・書名・出版社名)

【参考書】各自のテーマごとに指示する。

科目名	卒業研究		
担当教員名	亀田 温子		
ナンバリング			
学 科	社会情報学部-現代社会コース		
学 年	4	ク ラ ス	1Bクラス
開 講 期	前期	必修・選択の別	必修*
授 業 形 態		単 位 数	2
資 格 関 係			

ねらい(科目の性格 科目の概要 学修目標)

3年次後期の「演習」につなげて、これまでの演習授業での検討から卒業研究テーマを設定し、具体的な課題に取り組み、その成果を実際に卒業研究としてまとめる。様々な社会現象から関心のあるテーマを設定し、何をどのような資料を用いて実証していくのかを前期には確定し、テーマの掘り下げと同時に、資料検索などを充分に行う。

ものをどのように資料等で実証していくか、その筋道の基礎学習と表現が卒業研究であり、また大学生活の学習の成果でもあるので、ゼミ内の討議はじめ相互に十分な意見交換を行うことも心がけ、考え・学ぶことの深さ・楽しさを実感してほしい。

内容

(グループ指導)

- ・はじめは、各自のテーマ領域にかかわりなく、これまでの卒業研究や関連論文で参考になるものを基本的に全員で読む。テーマの設定、方法、実証資料の使い方等について、それから学ぶ。
- ・関心のある卒論について、まとめを作成し報告する。
- ・資料検索について、データベースの使い方など、情報資料室で実践する。
- ・各自テーマ案を作成し、基本文献を探す。テーマが発展・展開できる可能性があるか、資料などの状況をとらえる。

(個別指導)

- ・設定した個人のテーマにもとづき、個別指導を行う。
- ・7月のテーマ発表会(テーマ、設定理由、基本文献など)にむけての、基本作業を行う。

2008年度の卒業研究テーマ

- 「魔女をキーワードにみる輝く現代の女性たち」「宮崎アニメのキャラクター」
- 「読書形態の変化と木と人の出会いの場」「ポピュラー絵本-愛される絵本の基準は」
- 「SNS流行の秘密をさぐる」「ドラマ「奥様は魔女」で描かれる不思議の世界」
- 「J-POP時代にいるSinger」「リカちゃん人形に見る時代と子ども文化」
- 「女性とファッション」

評価

テーマ設定など課題60点、授業への参加度30点、出席10点で、合計100点とする。60点以上が合格。

教科書・推薦書(著者名・書名・出版社名)

各自のテーマにあわせて紹介する。

科目名	卒業研究		
担当教員名	田総 恵子		
ナンバリング			
学 科	社会情報学部-現代社会コース		
学 年	4	ク ラ ス	10クラス
開 講 期	前期	必修・選択の別	必修*
授 業 形 態		単 位 数	2
資 格 関 係			

ねらい(科目の性格 科目の概要 学修目標)

この演習では、3年次の「演習・」及び「原典購読」で学んだ環境問題と国際社会についての知識をさらに発展させ、個々のテーマに焦点を当てた調査、研究を行う。単なる情報収集の段階から、集めた情報の体系的整理・分類と分析へ進み、分析結果の社会的及び学問的意義の検証の段階へと発展させていく。

これまでの卒業論文のテーマ

「東アジアの酸性雨問題」、「地球環境と森林伐採」、「リサイクル社会を目指して」、「食と地球環境問題」、「ISO 14001」、「企業の社会的責任」、「自然と共存する経済」、「世界の貧困問題」、「イラク戦争開戦の背景」、「イスラエルとパレスチナ」など。

内容

第1回～第5回：個々のテーマ選択、問題提起

第6回～第11回：テーマに関する情報収集

第12回～第14回：テーマ発表会用のプレゼンテーション準備

第15回：テーマ発表会

評価

出席(15%)、発表・討論への参加(10%)、中間報告(75%)で総合的に評価

教科書・推薦書(著者名・書名・出版社名)

授業で指示。

科目名	卒業研究		
担当教員名	大友 由紀子		
ナンバリング			
学 科	社会情報学部-現代社会コース		
学 年	4	ク ラ ス	1Dクラス
開 講 期	前期	必修・選択の別	必修*
授 業 形 態		単 位 数	2
資 格 関 係			

ねらい(科目の性格 科目の概要 学修目標)

社会学の中でも実証研究によって成果をあげてきた家族社会学の研究方法によって、個々の学生の卒業研究をすすめる。演習、演習、原典購読を通じて絞られた個々の研究テーマに関して、実証データを収集し、分析をすすめる。

内容

個々の研究テーマに応じて、以下の作業をすすめ、授業時に中間報告をする。

1. 先行研究を収集・整理・分析する
2. 行政資料や官庁統計などの記録文書を収集・整理・分析する
3. 社会調査(事例調査または統計調査)を計画・実施する
4. 卒業論文(本文14,000~20,000字)の構成を決定する

なお、近年の卒業研究には、以下のテーマがあった。

- 「『おひとりさま』というライフスタイルの提唱」
- 「未婚晩婚化と結婚披露宴の変化」
- 「『農家の嫁』のイメージ転換」
- 「晩産化と不妊治療の社会的意味」
- 「e-ラーニングによる育児休業取得者の職場復帰支援プログラム - 資生堂開発の『wiwiw』の事例より - 」
- 「子どもの成長祝い - 七五三にみる今日の変化 - 」
- 「地域における子育て支援 - NPO法人市川子ども文化ステーションの取り組み事例より - 」
- 「子どもの安全と防犯パトロール - 埼玉県蕨市パトロールピース隊の場合より - 」
- 「地産地消の課題 - 埼玉県志木市の事例より - 」
- 「男の料理教室とその必要性」
- 「有料老人ホーム入居者のライフスタイル - ベネッセスタイルケアの事例より - 」
- 「身体障害者の外出サポート - 身体障害者Aさんのサポートの事例 - 」
- 「身体障害者の経済的自立 - 脳性麻痺の事例より - 」

評価

授業中の発表や討議(50%)と学期末の卒業研究中間報告(50%)によって評価する。

教科書・推薦書(著者名・書名・出版社名)

個々の研究テーマに応じて、推薦書や参考図書を紹介する。

科目名	卒業研究		
担当教員名	川口 英俊		
ナンバリング			
学 科	社会情報学部-現代社会コース		
学 年	4	ク ラ ス	1Eクラス
開 講 期	前期	必修・選択の別	必修*
授 業 形 態		単 位 数	2
資 格 関 係			

ねらい(科目の性格 科目の概要 学修目標)

十文字学園女子大学において学んできて培った問題意識、研究手法、情報ツールの活用などを卒業論文を完成させることによって結実させ、4年間の総括とする。

内容

- ・テーマ選定 自分が関心、興味のある事を選び基本的な知識を勉強していく。その中で自分の問題意識を育てテーマを確定させる。
- ・資料収集 基本的文献、論文、ホームページなどを集めていく。
- ・中間報告 問題意識、構成などを発表し、議論する中で論点の検討を行い内容の理解を深める。

評価

- ・卒業研究の中間発表(80%)、出席(20%)の総合評価。

教科書・推薦書(著者名・書名・出版社名)

澤田昭夫「論文の書き方」講談社学術文庫

小笠原喜康「大学生のためのレポート・論文術」講談社現代新書

科目名	卒業研究		
担当教員名	阿部 史		
ナンバリング			
学 科	社会情報学部-現代社会コース		
学 年	4	ク ラ ス	1Fクラス
開 講 期	前期	必修・選択の別	必修*
授 業 形 態		単 位 数	2
資 格 関 係			

ねらい(科目の性格 科目の概要 学修目標)

消費者問題・情報化社会などの身近なテーマを法的な観点から取り上げます。契約を中心として私法の分野からのアプローチをしてゆきます。広く社会に関心を持ち、現状を踏まえ、それらをめぐる法律はどのようになっているのか、法の目的や紛争解決手段を学びます。文献購読、参加者による報告、ディスカッションを通じて、歴史的な背景や現在の社会をめぐり状況からその機能・限界を踏まえて展望について研究します。

卒業研究としての論文作成作業を進め、最終的に論文を完成させます。

内容

3年生時の研究テーマ、ゼミ・レポートを踏まえて、各自選択した卒業研究テーマの研究を進めます。前期にはテーマの確定、構想、文献調査を行い、後期にはそれをもとに卒業研究を論文の形に仕上げ作業を進めてゆきます。

評価

研究会での参加の積極性、卒業研究の進捗状況・内容により評価します。

教科書・推薦書(著者名・書名・出版社名)

参加学生の関心に照らし、授業時に指示します。

科目名	卒業研究		
担当教員名	橋本 ヒロ子		
ナンバリング			
学 科	社会情報学部-現代社会コース		
学 年	4	ク ラ ス	2Aクラス
開 講 期	後期	必修・選択の別	必修*
授 業 形 態		単 位 数	2
資 格 関 係			

ねらい(科目の性格 科目の概要 学修目標)

日本及び諸外国における政治・社会・経済・文化などの諸問題について、ジェンダーの視点で分析した卒業論文を完成させる。4年の夏休みの終わりまでに第1次草稿、12月中旬の卒論締め切りまでに最終論文を提出。

内容

01年度生以降の卒論テーマは以下の通りです。

01年度生：女性活用と企業／女性起業家／CMに見る女性像／摂食障害／児童虐待／DV加害者の更正／グリム童話のジェンダー分析／ストーカー被害／男性の育児休業

02年度生：ひとり親家庭に対する支援／家庭教育における役割分担：日本と中国の役割分担の比較研究／キャリア開発における日中女性の比較／日本と中国の若い女性の意識の比較／少子化問題と男性の育児参加／仕事と育児の両立支援の推進：地方自治体と企業に焦点をあてる／ドメスティック・バイオレンス：被害者女性に対する自立支援／アパレル業界で活躍する女性と彼女たちの成功要因

03年度生：街のバリアフリー～駅のバリアフリー化／女性のパートタイム労働：管理職や専門職への登用／メディアにおけるスポーツ女性の表現／女性管理職 企業の取り組みと今後のあり方／魔女狩りの歴史 現代の魔女狩りとは／女子学生のファッションの現状と課題／児童文学に描かれた家族像／ダイエットと摂食障害／大卒女性のライフコース／CMのジェンダー分析／夫婦選択別姓

04年度生：仕事と育児によって男女間で格差が生まれてしまうのは何故なのか：家庭生活の側面から分析／アジアにおける人身売買犠牲者のエイズ問題について／キャンパス・セクシュアル・ハラスメント～現状と大学の課題～／子どもに対する性暴力の実態と対策／子どもの孤食～なぜ、一人で食べるのか～／フェアトレードの課題：有機コーヒーに焦点をあてて／国際結婚カップルの子育てにみるエスニシティ - 中国人女性と韓国女性との比較調査より -

05年度生：子育てとジェンダー～男性が子育てに参加できる社会とは～／メディアとジェンダー～テレビアニメを中心として～／Comparative Study on Primary School Children in Jap

an and Canada/ 女人禁制の歴史と現状 - 大峰山に焦点を当てて - / 遊郭と呼ばれた花街島原～女性による文化継承～/ 現代中国女性の労働意識 専業主婦の出現と今後の動向/ 中国人の観光旅行に関する一考察/ 中国における一人っ子政策/ ホスピタリティについて～ホテルのサービスに焦点を当てて～/ ピンクリボン運動の現状と課題

評価

出席(10%)、論文の内容(70%)、ゼミ活動への貢献(20%)

教科書・推薦書(著者名・書名・出版社名)

【参考書】各自のテーマごとに指示する。

科目名	卒業研究		
担当教員名	亀田 温子		
ナンバリング			
学 科	社会情報学部-現代社会コース		
学 年	4	ク ラ ス	2Bクラス
開 講 期	後期	必修・選択の別	必修*
授 業 形 態		単 位 数	2
資 格 関 係			

ねらい(科目の性格 科目の概要 学修目標)

4年前期の「卒業研究」をうけて、テーマについてについて卒業研究を作成し、完成につなげるのが「卒業研究」である。各自が設定したテーマをもとに、仮説をどのような方法で実証するかなど、論文構成を考える。さらにアンケート調査などを計画・実施の場合はその作業を進める。論文の書き方を再認識し、タイトル、文章内容、論述方法を検討し、具体的に執筆にとりかかる。自分だけの見方・書き方ではなく、第3者が見てもわかりやすい表現、書き方をゼミのメンバーで相互に確認しあうなどの共同作業も含めて、論文の完成につなげる。

内容

テーマに沿った個別指導を中心に、11月の中間報告会でのグループ学習、12月上旬の内容報告、12月下旬の提出に向けての、計画作りを行い、提出に導く。

- ・個別によるテーマに沿った指導を基本とする。
- ・てテーマによっては、アンケート調査票作成と実施
- ・最終論文提出プランづくり・日程計画の作成
- ・論文構成の確認
- ・11月中間発表会
- ・12月提出に向けての確認・見直し
- ・完成

評価

卒業論文として、内容、方法等が十分に表現できているか、内容、形式についてのコース内教員の査読総合評価も加え、卒研の最終評価を行う。

教科書・推薦書(著者名・書名・出版社名)

個別のテーマに応じて参考文献を紹介する。

科目名	卒業研究		
担当教員名	田総 恵子		
ナンバリング			
学 科	社会情報学部-現代社会コース		
学 年	4	ク ラ ス	2Cクラス
開 講 期	後期	必修・選択の別	必修*
授 業 形 態		単 位 数	2
資 格 関 係			

ねらい(科目の性格 科目の概要 学修目標)

卒業研究 に続けて、個々のテーマに焦点を当てた調査、研究を行う。集めた情報の体系的整理・分類と分析に重点を置き、分析結果の社会的及び学問的意義の検証を行う。研究の中間報告では、互いに、発表者の論文を読者として読み、理解しにくい点を指摘し、改善のための議論を行う。その議論を通じて、明確な論理と文章を備えた、わかりやすい論文作成につなげたい。

内容

第1 回～第5 回：リサーチの経過報告

第6 回：テーマの最終決定

第7 回～第11 回：リサーチ及び卒論執筆

第12 回～第14 回：論文体裁の最終確認

第15 回：卒論発表会

評価

出席(15%)、発表・討論への参加(10%)、卒業論文(75%)で総合的に評価

教科書・推薦書(著者名・書名・出版社名)

授業で指示。

科目名	卒業研究		
担当教員名	大友 由紀子		
ナンバリング			
学 科	社会情報学部-現代社会コース		
学 年	4	ク ラ ス	2Dクラス
開 講 期	後期	必修・選択の別	必修*
授 業 形 態		単 位 数	2
資 格 関 係			

ねらい(科目の性格 科目の概要 学修目標)

4年次前期の卒業研究 において準備してきた卒業研究を、理論性を持ちかつ独創性を具えた研究論文としてまとめ、大学4年間の履修上の総仕上げをする。

内容

卒業研究は、以下の手順によって進められる。学生各自は、卒業研究を中間報告し、討論によって研究内容を深める。担当教員は、個々の研究課題に対して理論や接近法を助言するとともに、研究論文の執筆について技術指導を行う。

1. 研究テーマの設定

なぜその研究に着手することにしたのか、着想に至った経緯などを整理し、何をどこまで明らかにするのか、研究の目的を定める。

2. 先行研究の検討

すでに明らかになっていることを整理・検討し、まだ明らかにされていない、研究が着手されていない、残されている課題を把握する。

3. 独自性・独創性のある理論の展開

文献資料や社会調査によって、データを収集・整理し、それを分析することで明らかにされた新たな知見を論理的に提示する。

4. 今後の課題

この研究によって明らかになったことをまとめ、さらに扱いきれなかった、残された課題を把握する。

評価

授業時の研究発表と討論(20%)、卒業論文(60%)、口頭での卒業論文報告(20%)によって総合的に評価する。

教科書・推薦書(著者名・書名・出版社名)

【推薦書】個々の学生について、それぞれの卒業研究にあわせて紹介する。

科目名	卒業研究		
担当教員名	川口 英俊		
ナンバリング			
学 科	社会情報学部-現代社会コース		
学 年	4	ク ラ ス	2Eクラス
開 講 期	後期	必修・選択の別	必修*
授 業 形 態		単 位 数	2
資 格 関 係			

ねらい(科目の性格 科目の概要 学修目標)

十文字学園女子大学において学んできて培った問題意識、研究手法、情報ツールの活用などを卒業論文を完成させることによって結実させ、4年間の総括とする。

内容

- ・資料収集 基本的文献、論文、ホームページなどを集めていく。
- ・卒業論文の作成 校正、添削などを通じて推敲していく。
- ・発表 自分の卒業論文について発表し、議論する。

評価

- ・卒業論文(80%)、卒業論文の発表と出席(20%)の総合評価。

教科書・推薦書(著者名・書名・出版社名)

澤田昭夫「論文の書き方」講談社学術文庫

小笠原喜康「大学生のためのレポート・論文術」講談社現代新書

科目名	卒業研究		
担当教員名	阿部 史		
ナンバリング			
学 科	社会情報学部-現代社会コース		
学 年	4	ク ラ ス	2Fクラス
開 講 期	後期	必修・選択の別	必修*
授 業 形 態		単 位 数	2
資 格 関 係			

ねらい(科目の性格 科目の概要 学修目標)

消費者問題・情報化社会などの身近なテーマを法的な観点から取り上げます。契約を中心として私法の分野からのアプローチをしてゆきます。広く社会に関心を持ち、現状を踏まえ、それらをめぐる法律はどのようになっているのか、法の目的や紛争解決手段を学びます。文献購読、参加者による報告、ディスカッションを通じて、歴史的な背景や現在の社会をめぐる状況からその機能・限界を踏まえて展望について研究します。

卒業研究としての論文作成作業を進め、最終的に論文を完成させます。

内容

3年生時の研究テーマ、ゼミ・レポートを踏まえて、各自選択した卒業研究テーマの研究を進めます。前期にはテーマの確定、構想、文献調査を行い、後期にはそれをもとに卒業研究を論文の形に仕上げ作業を進めてゆきます。

評価

研究会での参加の積極性、卒業研究の進捗状況・内容により評価します。

教科書・推薦書(著者名・書名・出版社名)

参加学生の関心に照らし、授業時に指示します。

科目名	キャリアサポート		
担当教員名	岡本 卓		
ナンバリング			
学 科	社会情報学部-現代社会コース		
学 年	3,4	ク ラ ス	
開 講 期	前期	必修・選択の別	選択
授 業 形 態		単 位 数	2
資 格 関 係			

ねらい(科目の性格 科目の概要 学修目標)

マスメディア界は情報提供のいっそうのスピードアップを求められるとともに、情報の濃密度や内容の信頼性を問われ、メディアの選別時代に入ったと言える。われわれ現代人はそうした超情報化社会を生き抜くためにも、メディアごとのリテラシー(読解力)を備えなければならない。

メディアごとのリテラシーを身に付けていくひとつの道は、まずは新聞、放送、出版、インターネットといった各業界が今日の社会でどのように機能しているかを知ることから始まる。また、マスメディア界は人的資源が財産であり、いかに可能性を秘めた人材をそろえているかが業界での勝ち負け、生き残りを左右する。この意味でマスメディア界がどのような人材を求めているのか、その内部事情を知ることが不可欠である。

授業では、テレビ界出身の本学教員とマスコミへの就職最前線事情に詳しい専門家を中心にして、激変するマスメディア界の現状と将来に関する最新情報を提供する。

内容

1. ガイダンス : マスコミで働くということはどういうことか
2. 現代マスコミ事情: 活字・放送・ネットの業界再編の動き
3. ジャーナリズム : ジャーナリズムの責任/ジャーナリストの仕事・役割
4. 放送局・広告業界の現状と展望
5. 報道(新聞・出版)の変遷
6. 雑誌トレンドファッション
7. 情報タウン誌メディアの興亡
8. 書籍文藝の現況と新たな挑戦
9. コミックアニメージュの変貌
10. 女性誌ヤングファッション考
11. 自己分析と自己表現
12. 企画の立て方・考え方
13. 女性誌市場マーケティング論
14. エントリーシートの現実と書き方
15. 面接試験とその対策

評価

小テストまたはレポート(随時) = 50点 出席率 = 50点 計100点 60点以上が合格

教科書・推薦書(著者名・書名・出版社名)

授業時に紹介する。

注意: 受講希望者多数の場合は人数制限を行うことがある。